洞爺湖町議会平成３１年３月会議

議　事　日　程（第２号）

平成３１年３月６日（水曜日）午前１０時開議

日程第　１　会議録署名議員の指名について
日程第　２　一般質問について
日程第　３　同意第８号　農業委員会委員の任命について
　　同意第９号　農業委員会委員の任命について
　　同意第１０号　農業委員会委員の任命について
　　同意第１１号　農業委員会委員の任命について
　　同意第１２号　農業委員会委員の任命について
　　同意第１３号　農業委員会委員の任命について
　　同意第１４号　農業委員会委員の任命について
　　同意第１５号　農業委員会委員の任命について
　　同意第１６号　農業委員会委員の任命について
　　同意第１７号　農業委員会委員の任命について
　　同意第１８号　農業委員会委員の任命について
　　同意第１９号　農業委員会委員の任命について
　　同意第２０号　農業委員会委員の任命について
　　同意第２１号　農業委員会委員の任命について
日程第　４　議案第３８号　洞爺湖町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正について
日程第　５　議案第３９号　洞爺湖町重度心身障害者及びひとり親家庭等医療費の助成に関する条例及び洞爺湖町乳幼児等医療費助成に関する条例の一部改正について
日程第　６　議案第４０号　洞爺湖町介護保険条例の一部改正について
日程第　７　議案第４１号　洞爺湖町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営の基準に関する条例の一部改正について
日程第　８　議案第４２号　洞爺湖町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法の基準に関する条例の一部改正について
日程第　９　議案第４３号　洞爺湖町保育所条例の一部改正について
日程第１０　議案第４４号　洞爺湖町へき地保育所条例の廃止について

日程第１１　議案第４５号　洞爺湖町公園条例の一部改正について
日程第１２　議案第４６号　洞爺湖町農業研修センター条例の一部改正について

本日の会議に付した事件
日程第１～日程第１２まで議事日程に同じ

出席議員（１３名）

１番	岡崎　訓　君	２番	越前谷　邦夫　君
３番	竹林　新市　君	４番	今野　幸子　君
５番	千葉　薫　君	６番	立野　広志　君
７番	小松　晃　君	９番	板垣　正人　君
１０番	大屋　治　君	１１番	篠原　功　君
１２番	大西　智　君	１３番	五十嵐　篤雄　君
１４番	佐々木　良一　君		

欠席議員（０名）

地方自治法第１２１条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長	真屋　敏春　君	副町長	森　寿浩　君
総務部長	佐々木　清志　君	総務部次長	皆見　亨　君
経済部長	八反田　稔　君	経済部参与	鈴木　清隆　君
経済部参与	武川　正人　君	洞爺総合支所長	伊藤　里志　君
企画防災課長	佐野　大次　君	税務財政課長	佐藤　久志　君
住民課長	山本　隆　君	健康福祉センター長	原　信也　君
火山科学館長	杉上　繁雄　君	産業振興課長	佐藤　孝之　君
環境課長	若木　渉　君	上下水道課長	篠原　哲也　君
庶務課長	見付　敬蔵　君	農業振興課長	片岸　昭弘　君

洞爺湖温泉支所長	山崎貞博君	会計管理者	石川邦子君
教育長	遠藤秀男君	教育次長	天野英樹君
社会教育課長	永井宗雄君	代表監査委員	山口芳行君

職務のため出席した者の職氏名

事務局長	毛利敏夫	書記	中川翔太
庶務係	阿部はるか		

◎開議の宣告

○議長（佐々木良一君）　皆さん、おはようございます。

現在の出席議員は13名全員であります。

定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

（午前１０時００分）

◎会議録署名議員の指名について

○議長（佐々木良一君）　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、会議規則第120条の規定により、７番、小松議員、９番、板垣議員を指名いたします。

◎一般質問について

○議長（佐々木良一君）　日程第２　一般質問を行います。

本日は、９番、板垣議員と２番、越前谷議員の２名を予定しています。

初めに、９番、板垣議員の質問を許します。

９番、板垣議員。

○９番（板垣正人君）　おはようございます。９番、板垣でございます。

通告順に従いまして、質問をさせていただきますが、議長、通告している（１）は良いのですけれども、（３）もこれに関連しているので、（１）と（３）を先にやりたいと思います。よろしくお願いします。

初めに、まず、平成31年度の町政執行方針ということで、今回質問させていただきますが、町政執行方針をいただきましてから何回か読んで、この中で、このことはどうなのかなと疑問に思ったことを今回質問させていただきますが、まず一番最初に質問しておりますのが、定住・移住の基礎となる住宅施策について伺いますということで通告してあります。

町政執行方針の10ページに「定住・移住の基礎となる住宅施策については、町内全体の総合的な住宅施策として、「洞爺湖町住生活基本計画」に基づき、福祉・まちづくり・環境等の関連分野と連携を図り、町営住宅については、適切な管理とともに、「洞爺湖町営住宅等長寿命化計画」に基づき、事業を実施いたします」と。「さらに、花和地区での若い就業者などの定住を促進するため、新たに単身者住宅１棟４戸を整備いたします」と書いてあります。

今回の町政執行方針を読むと、とにかく定住・移住という言葉が本当にあちらこちらに出ております。それだけ町長もやっぱり人口……、昨日お話しされていましたけれども、年に洞爺湖町として、毎年約200人ぐらいの人口が減になっているという状態の中で、何とか歯止めをかけたいのだろうと、そういうことで定住・移住という部分で力を入れていきたいのだというようなことだと思います。その中で、定住・移住は私も大賛成で、自分の中でもそ

ういう気持ちは持っております。

その中で、今回、ちょっと細かい話になりますが、先々月かな、ある方から聞いたのですけれども、公営住宅に住んでいる方で、今まで母子家庭でいたと。例えばお母さんと息子さんなり娘さんなり、１人なり２人がいて、ずっと低家賃で住んでおられたのだけれども、たまたま子どもが高校卒業して就職しましたと。就職したら、そこそこ良いところに入れて、給料もそこそこもらえると。そうなると、次の年になると家賃がぐんと上がるというのです。それは私も承知していますけれども、そういうことで、働いている場所が、洞爺湖町から伊達に通っていたり、室蘭に通っていたりする方がおりまして、その中で、家賃がこれだけ高くなって、就職したばかりのお子さんですから、親に家賃分だということになかなかならない状態です。それで、そんなに家賃が高くなるのであれば、いっそのこと室蘭に引っ越しますとか、子供が伊達に引っ越しますとかと、通うのも楽だしということで、多少負担が増えても、そっちのほうが楽だからということで引っ越される方もいるみたいです。

ということは、何を言いたいかというと、せっかくいろいろな部分で、移住だ定住だと、公営住宅、新しく単身者向けもつくったり、いろいろなことをしてお金をかけているのですが、どこかで、今まで住んでいた方を何とかここにもう少しでも定住していただけるような施策というか、何とかできないのか。これは、きっともって公営住宅法というのがあるからなかなか厳しいと思いますけれども、その辺の施策というか、そういうことを町としては何か考えていませんかという、まず質問でございます。

○議長（佐々木良一君）　八反田経済部長。

○経済部長（八反田　稔君）　町営住宅等も含めた住宅施策かと思います。

まず初めに、議員がおっしゃいました町営住宅のことについて説明させていただきますと、今、議員ご理解されたかと思いますが、公営住宅法に基づきまして町営住宅は建設されまして、その目的が低額所得者に賃貸するための住宅となってございますので、どうしても家賃の算定方法につきましては、今言いました公営住宅法に基づいて決定されているので、なかなかそれについては改良ということは難しいということになってございます。

収入の高い町営住宅に住んでいる方というのは、高齢者とか、そういう方が住んでいる裁量世帯というのがあるのですけれども、そういうものでない限りは、３年以上住むことによって、明け渡し義務も発生してきますし、それから家賃も当然高くなります。

そういうこともありまして、町といたしましては、町に登録にされている空き家バンクですとか、ほかの町営住宅の提供をさせていただいて、洞爺湖町へ長く住んでいただきたいというふうに考えているところでございます。

また、もう１点、前段でありましたけれども、そのほかの施策といたしましては、今年度、花和地区に単身者用の住宅を計画しているのですが、その後につきましても、月浦地区や、今年度解体予定の月浦地区の町営住宅跡地にも、定住促進住宅に向けて、今後検討させていただきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（佐々木良一君）　板垣議員。

○９番（板垣正人君）　部長の話わかりますけれども、要するに定住・移住という部分で、何とか住んでもらう、要するに放っておいたら、そこそこ給料が高くなる人は家を建てるなり、空き家バンクを利用するなり、この町に住むとすれば。それだったら、通っている場所が伊達だとか室蘭であれば、そっちに引っ越して、そっちのほうでアパートでも探したほうが良いかなとなるのです。その辺が本当に私も頭悩ますところなのですけれども、例えば公営住宅でも、この住宅に関してはこうしたいとか、こうするべきだとかというふうに、将来に向かってしていかないと、きっとこういう方が増えていくと思います。また、そういう人が移転して、結局公営住宅は空き家がどんどん増えていくというような状態になっていくのではないかなと思うのです。

　その辺のことというのは、町として何か、法律上も確かにあるかもしれませんが、例えば古くなった住宅に関しては、町として別な方策をつくるとか、公営住宅から外して何とかするとか、そういうこともできるのか、できないのか、その辺をちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（佐々木良一君）　八反田経済部長。

○経済部長（八反田　稔君）　公営住宅に特化して答弁させていただきますが、公営住宅につきましては、洞爺湖町の町営住宅というのは、先ほど申し上げました清水団地とか洞爺地区の緑沢団地を除くと、比較的ほかの市町村よりは建設年度が新しい団地が多い状況でございます。中でも、今、議員が言われるような、ちょっと古い住宅もあるのですが、それにつきましては、用途変更ということも実際は可能になるかと思います。その中には、団地の中に住まわれている方が同意をして移転していただいて、公営住宅の用途を１回廃止しなければならないということが手続上ありますので、ちょっと複雑な仕組みが、まず整理しなければいけないというところがございます。

　町といたしましては、それによりももっと速効性のある考え方としては、今後、先ほど言ったものとは違いまして、旧教員住宅というのも結構あちこちにありまして、１棟４戸のブロック建てのものも、30年ぐらい経過しているものもあるのですが、それをきちっと改良して使えないかということも、今後検討させていただきたいと考えているところでございます。

○議長（佐々木良一君）　板垣議員。

○９番（板垣正人君）　本当に定住対策というのは、言葉では簡単に言えても、なかなか人が住んでいただける状況をつくっていくというのはなかなか大変なことだと思います。

　その中で、例えば今住んでいるところからなるべく、今住んでいるところを大事にしていただいて、何とかこれからも住んでいただきたいという施策も大事だと思います。家賃にしても、町独自というか、何とかできないのかなと私は個人的に思うのだけれども、スライド制にして、例えば３年、５年後少しずつ上がっていくとか、そういうことというのはできないのかなと思ったりしますけれども、その辺のことというのはいかがいなものでしょうか。

○議長（佐々木良一君）　八反田経済部長。
○経済部長（八反田　稔君）　先ほど申し上げましたように、公営住宅法にて定まっているものですから、家賃については、どうしてもそれに沿っていただかなければならないということで、議員言われるような傾斜的に、少し段階的に負担を減らす方法はないのかという提案かもしれませんが、それについては、現在の法律上難しいと考えています。
○議長（佐々木良一君）　９番、板垣議員。
○９番（板垣正人君）　公営住宅に関しては、法律上そうであるということで。
　これからの住宅施策という部分でちょっと耳に入れてほしいのですけれども、この間ある方に「旦那さんどうしているの。」と聞いたら「離婚した。」と言うのです。なぜかというと、旦那さんはほかの町へ働きに行って、単身赴任で。そっちはそっちで生活がある。自分は本当は離婚したくなかったのだけれども、公営住宅に住んでいるものだから、家賃が高くて高くてどうにもならなくて、戸籍上だけ抜きましたというような方もいました。そうすると、自分１人の収入だから公営住宅の家賃がぐんと下がるわけです。そんなことまでしてどうなのかという、本当にこの法律が良いのか、悪いのかという部分もあるような気がして。収入が高くなっていけば出ていけという話なのだろうけれども、都会と違ってうちみたいな小さな町というのは、大事な大事な住居というか、それだけその人方がみんな出ていって、受け入れるだけの洞爺湖町の中にはほかの住まいがあるといったら、そうでもないだろうし。では、家を建てたらどうなのという話になったときに、噴火も近いかもしれないから、もう少し考えるわ、みたいな感じ。結局、伊達とか室蘭に行ってしまうのではないかというような気がします。それで、何とかならないのかなという質問ですが、公営住宅に関しては無理だと。
　今、古くなって、例えば青葉の２棟、古い住宅あります。あそこなんか私の友人も住んでいるのですけれども、構っていないというか、例えば壁も汚い、真っ暗だから、電気がどこについているかわからないみたいな感じで、夜なんか非常に危険なぐらい、危ないのではないかというぐらいな場面を見ますけれども、その辺の管理というか、例えばスイッチにランプがついている、何スイッチというのかわかりませんけれども、そういうスイッチがあったりするわけだから、そのぐらいの配慮をしてあげても良いのではないのとか、そういうことというのはいかがなものでしょうか。
○議長（佐々木良一君）　八反田経済部長。
○経済部長（八反田　稔君）　公営住宅の住環境と言いましょうか、その関係だと思いますが、町といたしましては、例えば電気に特化して申し上げますと、できたときに、町営住宅としては、階段等々にいろいろな電気をつけて、また、非常の際の非常灯もつけているところでございますが、中で、大きな団地の例なのですけれども、かなり細かい間隔で電気もつくようにさせていただいていたのですが、電気代がかかると。皆さんで協議されていて、電気の球を外して、こんなの要らないからというようなところも実際にあるところがあります。
　ただ、今、議員が言われるような団地のところも、私ども担当の者と話をさせていただい

たのですが、真っ暗でスイッチどこにあるかわからないと。それであれば、入っている人は良いけれども、お客さんで来た人は、真っ暗でどこから入って良いかわからないような団地についてはどうなのだという話をさせていただきまして、そういうところを、電気代が余計にかかるのではなくて、システムを一部変えれば良いのだろうから、ホタルスイッチをつけるとか、ついてもすぐ消えるような人感センサーをつけるとかということは、今度、管理人と私どものほうでそこら辺の、こういう提案があったので、改善ができるところは改善させていただきたいと、そのように思います。

以上です。

○議長（佐々木良一君）　９番、板垣議員。

○９番（板垣正人君）　要するにそういう環境のところというか、空き家というか、空いている部屋が多いのです。そういうところにも、もし住みたい方がいるのであれば募集というか、どんどん進めていくべきだし、それが例えば、あそこは単身者は入れないのかどうなのかわからないですけれども、そういう部分、例えば洞爺湖温泉の柳川団地の４階、５階は６０歳以下の方でも住めますというようなことになりました。そういうところも当てはめていけばどうなのかなというような気もします。

とにかく今ある財産をいかにうまく利用していくかということも一つの策だと思いますので、玄関のところがかなり汚れているからペンキを塗ってきれいにするとか、外壁もそうですけれども、ちょっときれいにするだけで随分見た目も違うし、住む人も気持ちが大分違うのではないかなと思いますけれども、そういうことは考えられますか、お伺いします。

○議長（佐々木良一君）　八反田経済部長。

○経済部長（八反田　稔君）　一つの団地を特化して申し上げるわけにはいかないと思うのですが、実は、今言われたような団地につきましては、１棟13戸あるのですけれども、２戸空いていまして、あとの11戸は入られている状況です。それで、その団地につきましては、実は清水団地の平屋の方々が、そういう低家賃で入れて、地域の中心的なところにあるということで希望されている現状もございます。そういうこともございますので、この機会に、ご提案があって、どこまでできるかというと、なかなか難しいのは、階段とかになると塗装するにも、いつのタイミングでどうするのだというタイミングもあるのですけれども、いろいろ協議して、改善できるところは、予算のこともありますけれども、検討させていただきたいと、そのように思います。

○議長（佐々木良一君）　９番、板垣議員。

○９番（板垣正人君）　少しでも住んでいる方が気持ちよく住める。また、新たな人があそこなら住みたいと思っていただけるようなことも立派な定住対策になっていくと思いますので、その辺のことはよろしくお願いしたいと思います。

次、子育て支援住宅というのが今、洞爺のほうにありますけれども、この辺の考え方というのは、今後どう思っているのか、どういうほうに進めていくのか、また、考えているのか、考えていないのか、その辺も含めてお聞きしたいと思います。

○議長（佐々木良一君）　八反田経済部長。
○経済部長（八反田　稔君）　子育て住宅、先ほどの答弁とちょっとかぶるところがございますけれども、まずもって町営住宅のほうに、公営住宅に皆さん、お薦めさせていただきたいというふうに考えています。建設計画は、先ほど言ったようにあるので、それは少世帯でも入れることになると思いますが、基本的には町営住宅は、就学前の子どもがいる世帯については、裁量階層と言いまして、25万9,000円の収入までは入れるような仕組みになってございますので、そこら辺をしっかりＰＲして、まずは町営住宅への斡旋、情報提供をしっかり取り組みさせていただきたいと考えております。
○議長（佐々木良一君）　総務部長。
○総務部長（佐々木清志君）　子育て住宅でございます。
　私ども総務課のほうでは、普通財産という形で住宅等を管理している部分でございますが、洞爺湖温泉の中学校の下のほうに旧教員住宅でございます。昨年度、普通財産になっておりますけれども、昭和58年に建設され、約35年が経過しております１棟４戸の２棟で８戸、これの住宅を今管理しているところでございます。現在、この施設について、改修したらいくらと、底地が個人所有なものですから、これらの部分で交渉して、できれば子育て住宅として対応できないかということを検討しているところであります。
　また、入江貝塚横にも教員住宅でございまして、まだ私どもの財産、新年度以降に普通財産になる予定でございますけれども、１棟４戸、これらについても現在、普通財産になる予定でございますので、温泉地区、虻田地区合わせて、これらも含めて、子育て支援住宅が可能になるかどうかを早急に検討してまいりたいと思っております。
　なお、施設等つきまして、私ども事前に見ておりますけれども、あの施設は、中は案外丈夫で、先生方が移転のたびに教育委員会が内装等を直しておりますので、便座関係は全て和便でございますけれども、思ったほどかからないのではないかというふうに今は申し上げますけれども、早急に金額を査定して、可能かどうかを検討してまいりたいと思っております。
　以上でございます。
○議長（佐々木良一君）　９番、板垣議員。
○９番（板垣正人君）　教員住宅の利用ということで、そういうことをどんどん進めていって、ここに住んでいる町民の方にも、そういう情報的な提供がもしあれば、例えばあっちへ引っ越そうかなと思ったのが、踏み留まって、もう少し待つかなと思う方もいるかもしれませんので、そういう情報提供も含めて、決まってからでも結構ですから、そういう話をして頂きたいと思います。これに関しては、以上で終わりたいと思います。
　続きまして、（２）洞爺湖森林博物館の整備について、コンセプト等を伺いますということで質問させていただきます。
　これは、私、旧虻田町議会から始めて、議員をやって20年になります。初めて私が旧虻田町の古い議場で一般質問したとき、森林博物館の質問を初めてさせていただきました。あれから20年経って、やっと今回の町政執行方針の中にも出てきたと。

12ページ、「洞爺湖の魅力を高めるとともに、洞爺湖での滞在時間を延ばしていくための拠点整備として、建設されてから60年が経過している洞爺湖森林博物館の整備に向けて、今年度、実施設計を行います」と、こういうことです。この件に関しては、いろいろな方がいろいろな質問で、私もさせていただきましたし、いろいろな話をさせていただいて、やっとここまで来たのかなということです。

そういった中、本当にこのとおり、洞爺湖の魅力を高めるとともに、滞在時間をと。滞在時間が増えることによって、連泊する人もいるのではないかとか、ほかから楽しみに来る方もいるのではないかということで、前々からそれはお話をしていて、こういうふうになったと思いますけれども、今回つくられる森林博物館、名前も含めて、どういうふうにしていくのか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（佐々木良一君）　鈴木経済部参与。

○経済部参与（鈴木清隆君）　議員おっしゃるとおり、現在の洞爺湖森林博物館は、昭和29年10月に北海道立の施設として建てられたものであります。ご存じのように、その後いろいろと町も改修等をしたところですけれども、やはり建物の朽ちく、また展示物の朽ちく等があって、今回、実施設計を平成31年度に行う予定としております。

この新しい建物のコンセプトでありますけれども、まず、森林博物館の整備におきましては、平成28年度から、森林博物館あり方に関する検討会を数回にわたり開催し、新しい博物館の姿を検討してまいりました。会議の中では、施設の老朽化だけではなく、標本・展示物においても老朽化が激しく、時代に即していないことで、改修や改築ではなく、新しい森林博物館を整備することが望ましいとの結果をいただいております。

また、施設、建物で全てを完結するものではなく、中島の森を活用して、訪れた観光客に散策をしてもらえるよう、散策をしてみたくなるような展示、また、紹介をこの施設でしていくべきだとのお声をいただいております。

この部分でありますけれども、洞爺湖中島は、ご存じのように11万年前の火山活動でできた洞爺湖カルデラが形成され、５万年前に中島溶岩ドーム群の形成によりできた島であるとともに、この洞爺湖周辺や有珠山の地形が形成された最初の場所であるというところでもございます。そうした部分では、ユネスコ世界ジオパーク、洞爺湖有珠山ジオパークを紹介していける施設として計画をしているところでございますし、それとともに、中島の森をしっかりと紹介できるようなものとしていきたいと考えております。

施設の中島の森を活用していくことは、温泉街のまちとはまた違った、ゆっくりとした時間が過ごせる場所にしていくことによりまして、観光客の滞在時間が延び、経済効果が得られることを目指しているところであります。

今お話をしている洞爺湖森林博物館の名称でありますけれども、今後、森林博物館という名称ではなく、新しい名称の中で、中のコンセプト等を、また、町民の方にも照会をして、新たな名前として考えていくところでございます。

○議長（佐々木良一君）　９番、板垣議員。

○９番（板垣正人君）　今、参与のほうからいろいろと説明ありましたけれども、大体わかりました。

その中で、最後の名前の部分ですけれども、ある程度完成したときでも、町民募集でもいいし、名前を募集したら良いのではないというような気もしますけれども、その辺の考え方を一つと。

あと、今もお話ありましたけれども、今年度、中島は広大な土地があって、本当に大自然で、唯一と言って良いぐらい手つかずの状態になっているのかなと思っております。ただ、近年、台風だとかで老木というか、木が倒れたり、そういう場面がありますけれども、その辺の整備も含めて、今後、仮称だと思いますけれども、博物館が皆さんに利用していただけるために、そこそこの努力はしなければいけないのかと、やっぱり最初が肝心だと思いますので、その辺の考え方をまず伺いたいと思います。

○議長（佐々木良一君）　鈴木経済部参与。

○経済部参与（鈴木清隆君）　まず初めに、名称でございます。この部分は、町の中で決めるのではなく、町民の皆さん、いろいろな方々のご意見をいただければと思いますので、公募等部分を今後考えていきたいとしているところであります。

また、今、議員がおっしゃるとおり、中島の中には、周囲８キロを散策できる、また、整備をされている散策路もございます。また、ショートコースとして２キロの散策路も、フットパスコースの中でも入っているところでありますし、そうした中島内の整備を、後志森林管理署の協力をいただきながら整備をしていって、やはり中島の魅力を十分発揮できるような場所とするとともに、この施設がその紹介をする場所として、しっかりと皆さんにわかってもらえるような、そういうような施設を目指してまいりたいと考えております。

○議長（佐々木良一君）　９番、板垣議員。

○９番（板垣正人君）　これから実施設計を行うところでありますから、中身のことはあれですけれども、本当に60年ぶりにできるのだから、きっともってあと60年はできないと思うぐらいのものだと思います。私が今61歳ですから、あっと言う間に60年というのは経つのですけれども、本当にうまく利用されるようなものにしていただきたいという気持ちが強い、ここに座っている方全員がそう思っていると思いますけれども、本当にそうしていただきたいと。それはお願いですけれども、そういう形の中で、せっかく予算をつけてやろうとしているものなので、一生懸命やっていただきたいと思います。

またもう一つ、中島は野鳥の宝庫と言われて、本当にいろいろな野鳥がいっぱい来ます。冬になったらオジロワシだとか、夏場あまり見ないような鳥も来たり、また、小さい小鳥というか、たくさんおりますが、俗に言うラムサール条約とよく聞きますけれども、あれは湖と湿地とか、そういうことを大事にするということで聞いておりますけれども、湿地がどうのこうのと、あそこは合うのか合わないかわからないけれども、全道にも結構あるのですよね、あちこち、ラムサール条約の。全国的にも結構ありますし、大沼あたりもそうなっているみたいだし、だから洞爺湖のあの辺、私ちらっとほかの人から聞いたら、ラムサール条約

とかになったときにはスポンサーがついてくれたり何かして、いろいろな部分で恵まれることもあるのですよねという話を聞いたのですけれども、その辺の考え方というというか、できるできないは別にして、町としては何か考えるのかちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（佐々木良一君）　鈴木経済部参与。

○経済部参与（鈴木清隆君）　全国いろいろなところで、ナショナルトラストを活動して、例えば釧路あたりは、１平方メートル活動とか、民間の方々がそこの地域をやはり守るために動いて、活動しているところが多々あるかと思います。

洞爺湖中島においては、一つには、酪農学園大学が研究・調査で入っておりますし、また、森林の再生という部分では、環境省もいろいろな整備をしている中で、一般の民間の方々もその会議に加わって、やはりこの自然を守るという形にはなっております。

今現在、地域自然資産法というのが環境省のほうにもできておりまして、やはり森、また国立公園内の自然を守るという部分の中で、先ほどお話しした自然環境トラストの整備とか、そういう部分もあります。今後、この新しい森林博物館を整備するに当たって、いろいろな方法があるかと思いますけれども、またその中身に関しても、皆さんの意見を聞きながら、やはり中島を多くの方が楽しんでいただけるような施設として、今後、住民も交えながらの形の体制を整えていければと考えております。

○議長（佐々木良一君）　９番、板垣議員。

○９番（板垣正人君）　理解しました。そのとおりやっていただきたいと思いますし、いろいろな角度から、先ほど言いましたけれども、60年ぶりにつくる建物なので、いろいろな角度から、できるできないは別にして、いろいろな可能性も含めて検討していただきたいと思います。

この件に関してもう一つ、最後に、料金等はどうするのか、それだけ聞きたいと思います。

○議長（佐々木良一君）　鈴木経済部参与。

○経済部参与（鈴木清隆君）　現在の森林博物館の料金でありますけれども、入場料という形の中で、条例で大人200円、子ども100円という形の部分を徴収させていただいております。ただ、今後、新しい施設に関しましては、入場料が良いのか、またほかの協力金、募金等が良いのか、今後検討してまいりたいと考えております。

○議長（佐々木良一君）　９番、板垣議員。

○９番（板垣正人君）　わかりました。

では、次に行きます。（４）の高齢化が進む中、いろいろな問題、除雪の問題とかペットの問題とか買い物など、いろいろな問題が出ていると思いますが、町の考えを伺いますということで、今回の町政執行方針の22ページ、「高齢化が急速に進む中で、日常生活の支援が必要なひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦世帯、さらには認知症高齢者も年々増加しています」と、「高齢者が住み慣れた地域で自立した日常生活を営み、安心して老後の生活が送ることができるよう、第７期高齢者福祉計画・介護保険事業計画に基づく各種施策を地域包括支援センターや社会福祉協議会、その他関係機関と連携して推進するとともに、地域包括ケアシ

ステムの構築をつくります」とか、また次のページには、「各種高齢者福祉対策について、多くの高齢者の方々に理解、利用されるようなさまざまな方策を用いてわかりやすく周知してまいります」と書いて、こういうふうにあります。

この文章を見たら、本当に心強いのですけれども、実際、私、今回話をしたいと思っているのは、例えば除雪の問題、私、今回除雪の問題をしようと思ったら、それから雪が一切降らなくて、半月以上雪が降らない状態で、その中でちょっとあれかなとは思うのですけれども、今年の１月、２月の初めごろを思い出してください。雪が大変多くて寒くて大変な状況でありました。２月17日、18日ごろから今回みたいに暖かい日が続いておりますけれども、例年ではまずないことなので、ちょっとお聞きしますけれども、高齢者の方がいます。洞爺地区のほうには、高台と下台で何かいろいろと方策があるみたいです。その中で、一番あれなのは、もともとは高齢者ではなかった、住んでいたときは。例えば農家の方なんか、民有地で、自分の家から町道まで出るまで結構距離がある家がたくさんあります。もともとは高齢者でなかったから自分で除雪も、機械を使って除雪をしておりましたが、息子さんも仕事でいなくなり、また、旦那さんも高齢で亡くなり、おばあちゃん１人になってしまったという家が結構あるのです。その中で頑張ってやっている方もおりますし、何とかならないかなと言っている方もおります。

その中で、洞爺地区に関して言うと、高台、下台のいろいろあるみたいなのだけれども、その辺がなかなか周知されていないというか、わからない方もいますし、除雪の、なんか１割負担でできますというようなこともあるみたいなことも聞いておりますけれども、その辺のことをもっとわかりやすく皆さんに周知するのと、全部一括役所のほうで受付をして、除雪対応してあげられるような体制というのはできないのかと思っての質問であります。その辺の考え方はいかがですか。

○議長（佐々木良一君）　見付庶務課長。

○庶務課長（見付敬蔵君）　洞爺地区では毎年度、高齢者等に対しまして除雪サービスを行ってございますが、そこら辺の広報という部分でのご質問かと存じます。

広報につきましては、毎年度実施をする中で、地区の民生委員にもご協力をいただいて、利用したいという方が、このサービスを受けられるかどうかの状況確認や、利用者に対するご意見などをいただいて利用を決定しております。そんな形で、民生委員には大変ご協力をいただいているところなのですが、広報につきましても、地区の民生委員が対象となると思われる世帯を１軒１軒回って体調を確認しつつ、サービスの利用などを呼びかけているというようなことで、毎年度進めているものでございます。

以上です。

○議長（佐々木良一君）　総務部次長。

○総務部次長（皆見　亨君）　私からは、虻田地区及び洞爺湖温泉地区の除雪の、まず現状等についてからご説明をさせてもらいたいと思います。

高齢などによりまして、自宅の玄関前などから、自ら除雪作業をすることが困難な方の場

合、自治会や近隣住民の方のご理解、ご協力によりまして、ボランティアとして除雪活動をしていただいているところでございます。

そのほかには、有償ではございますけれども、高齢者事業団や地域住民同士の、お互いさまの気持ちを大切にした助け合い活動の一環としての社会福祉協議会が実施しております有償ボランティア事業、これらなどで現在対応しているところでございます。この場合の料金等でございますけれども、高齢者事業団の場合は30分550円、有償ボランティアの場合は30分300円という料金設定をしているところでございます。

なお、本年度のこれまでの除雪依頼件数でございますけれども、高齢者事業団では、約20名からご依頼がございまして、出動件数、延べでございますけれども、600回。有償ボランティアでは、６名からご依頼がございまして、延べ91回の出動件数となっているところでございます。

当町の平成31年２月１日現在、住民基本台帳によります65歳以上の高齢化率は40.93％、また、民生委員による世帯調査の結果から、一人暮らし高齢者世帯は822世帯、老夫婦世帯が805世帯で、合わせますと1,627世帯で、全世帯の33.28％でございます。高齢者にとっては除雪作業はとても重労働であり、また、自ら除雪作業ができない方も大変多くいらっしゃるものと認識しているところでございます。

除雪の相談は、これまでにも行政や社会福祉協議会にございまして、その都度、ボランティアや有償事業所など等についてのご説明、ご紹介等をさせていただいているところでございますが、どこに相談して良いのかわからないといった方もいらっしゃることから、来年度、除雪の必要な時期が来ましたら、広報紙などにより周知を図るとともに、自治会や地域の皆様におけるボランティアのご理解やご協力、さらには高齢者事業団や有償ボランティア事業の活用など、さまざまな除雪体制の確保について今後も努めてまいりたいと思っているところでございます。

○議長（佐々木良一君）　９番、板垣議員。

○９番（板垣正人君）　これから聞こうと思ったことも全部答弁していただいたのであれですけれども、本当にそのとおり、知らない方が多いということで、年配の方というのは遠慮して、何とか自分でやりたい、どうするか迷ったりするのですね、お金もかかることもありますし。その辺で、わかりやすいご説明というか、文章というか。今この時期だったらそういうことはないと思いますけれども、また12月ごろになったら、今、次長が言われたとおり、今年度また必ず雪が降るわけですし、また今年より年一つとるわけです。１歳とも言えないとよく言いますけれども、本当にこれから増えても減ることはない場面だと思うのです、高齢者というか除雪ということに関しては。今までは考えられなかった場面でも、どんどんそういうふうになっていくのかと。

さっき次長も言ってくれた高齢化率も40.9％。あれよあれよと言っているうちに45％とか50％になるのかなと思いますけれども、そうなってくると、こういう作業というのが大変になってくると。今から数年後のことを考えて、こういう除雪ということに対しての認識を

もっと深めて、何か良い案というか、こうやればもっと町民の方に喜んでいただけるのではないかとか、そういうことを考えて、今やっているシステムも良いのですけれども、今後もっと利用者が増えるという想定で、何か考えることがないのかと思います。その辺の考え方というのはあるのか、ないのかお聞きします。

○議長（佐々木良一君）　皆見総務部次長。

○総務部次長（皆見　亨君）　議員がおっしゃるとおり、やはり高齢化、時代が進みまして、2020年には２人に１人が65歳以上というような現状になるというふうに予測されております。

今の除雪体制、私どもこれだけでは、本当にこういった高齢化率が増加したときに、十分なのかというところについては、なかなか不安であるというようなことでもございますことから、今後は、良い案が、行政だけではもちろん足りない部分もございますので、町の皆様からもいろいろとご意見等をいただきながら、知恵を絞り合いながら考えていきたいというふうに思っているところでございます。

○議長（佐々木良一君）　９番、板垣議員。

○９番（板垣正人君）　今、除雪のことでもう１点だけ。公営住宅の駐車場とかというのは、基本的に住んでいる方がやるということ。それも、何年も前ならそれで良かったのだけれども、今はどうなっているかといったら、高齢者が公営住宅にいて、それも除雪もできない状態の中で、住んでいる者、住民同士の中で何か結構ぎくしゃくする場面もあったり、そういうことも含めて、毎回毎回でなくても、たまに行政の、例えば除雪が終わった後に、あと時間で例えば１回だけ除雪してあげるとか、機械を使って、今後そういうことも考えられるのではないかと思いますけれども、その辺の町の考え方というのはいかがですか。

○議長（佐々木良一君）　八反田経済部長。

○経済部長（八反田　稔君）　今お話がありました町営住宅の関係でございますが、町営住宅の入居者は特に高齢化が著しい状況かと私どもも思っているところでございます。このお話につきましては、団地の管理人とか、町政懇談会の中でもそういうお話をいただいているところでございます。

まずもって、町といたしましては、持ち家の高齢者世帯との差のない支援を検討しなければならないとは思っていますが、そのほかに、今、議員がおっしゃいましたとおり、大雪が降って堆雪場所もないと。これ以上、自分たちでやってもどうにもならないという状況が発生した場合については、やはり町としては手助けとして、排雪はきちっとこれからしていかなければならないことがあるのだろうなというふうには思っているところでございますし、また、ほかの豪雪地帯の町営住宅の、町の排雪、除雪のかかわり等もちょっと調べさせていただいて、できるところから進めさせていただければというふうに考えているところでございます。

○議長（佐々木良一君）　９番、板垣議員。

○９番（板垣正人君）　そのとおり考えてというか、検討しながら、雪多いとき、少ないときありますけれども、自然相手ですから、でもシステムだけはちゃんとあったほうが良いのか

なと思いますので、こういう質問させていただきました。

続きまして、高齢者の中のペットの問題です。先ほど、もともと家族４、５人で住んでいたお家があって、お年寄り１人になって、もう公営住宅でも入ったらと勧めますよね、私なんかも。猫がいる、犬がいると。あんな大きい猫、犬ではないのだけれども、それがいるから、この子がいる間はここにいなければだめなのだというようなことで、結局今の除雪の問題にもつながってくるし、本人はこちらの団地に入っても良いと思うのだけれども、まさかこれを置いていくわけにいかない、家族と同じだということで。町長あたりなんか、有珠山噴火したとき、ペットの関係で非常に詳しい方なのですけれども、本当にそういう方を、非常に外から見てかわいそうなのだよね。除雪も、冬も大変だから本当は引っ越したいのだけれども、でもこの子がいる。年齢がそこそこいっているものだから、今さらほかの町にも行けないみたいな。そういう方が実際にいて、そういう方を何とかしてあげたいなと思うので、例えば古い公営住宅なんかでも、新しいところではなくても、古めの公営住宅であればペットも一緒に住んでも良いのではないのかなと思うのだけれども、周りに迷惑をかけないような飼い方をするということは前提なのだけれども、そういうことというのは考えられないのかなと思うのですけれども、その辺の考え方はいかがですか。

○議長（佐々木良一君）　八反田経済部長。

○経済部長（八反田　稔君）　町営住宅のペットのご提案かと思います。町営住宅につきましては、平屋の住宅以外は、一つ屋根の下で皆さんで協力して生活をしていただいているところでございますし、今話がありました除雪や草刈り等も共同で作業して、本当に皆さん一緒になってやっていただいているところでございます。

その中で、ペット問題というのは前からいろいろあったのですが、やはり団地内のペットの飼育を可能にする場合は、団地内において、音に敏感な方や動物アレルギーをお持ちの方、また、本当に犬や猫は嫌いなんだよねというお話もありますし、また、住戸内も著しく損傷することも考えられるということで、道営住宅なんかも現在は禁止されているようでございます。ペットが癒す効果というのは本当にあるとは思います。しかしながら、これは大変難しい問題だと思いますので、今後、洞爺湖町の住宅運営委員会等の意見を伺いながら、ただし、今の段階では難しいと思いますが、何らかのことができるどうか、もう少し勉強させていただきたいと思います。

○議長（佐々木良一君）　９番、板垣議員。

○９番（板垣正人君）　今すぐという話ではないと私も思っています。本当にいずれそういうふうになっていくのだろうなと。今、要するに子どもの数よりもペットの数が多いというような時代になっておりますし、ここにいる方も飼っている方もたくさんいると思いますけれども、高齢者対策だとか高齢者に優しいまちづくりとか、多くの高齢者に理解され、利用されるまちづくりと言っても、結局そういうところに何かストッパーみたいなものがついてしまうのかなというような気がするのです。法律上で仕方がないと言えば仕方ないのだけれども、何かの形でつくって、例えば先ほど言った教員住宅の跡地をどうするかだとか、例えば

ほかの古くなったところをどうするかとか、そういうときに、この問題、そういえばペットも住めるような町営の、町の持っている財産を、そういうことをしてみたいなというような考え方があっても良いのではないかなと思って質問させていただきました。勉強するということなので、大いに勉強していただいて、前向きにやっていただきたいと思います。

その次に、買い物等についての高齢者対策に対しての問題でございます。

今、買い物バスが出ておりますし、非常に喜ばれております。そういった中でも、毎回でなくても、今、洞爺地区から虻田地区までバスが出ているのですけれども、外れにいる人なんかは、下台で、外れにいる人なんかはなかなか利用できないので、こっちに来ていただければ便利だなという方もおります。その辺の地域の広がりというか、もう少し、定期的にするのか、デマンド的に、要するに電話かけて、この日だけ使いたいのだけれども、その時期はお願いしますとかとやるのか、そういうことも含めて、何かこれも定住対策、高齢者のために町が動くことになるのかなと思いますので、その辺の考え方はいかがなものか、お聞きしたいと思います。

○議長（佐々木良一君）　佐野企画防災課長。

○企画防災課長（佐野大次君）　買い物支援バスの運行につきましては、運行エリアを洞爺地区並びに温泉地区としており、週１回運行しております。現在の洞爺地区の運行ルートは、水の駅を中心とした洞爺下台の市街地を周り、月浦地区、温泉地区を経由して、虻田地区での買い物ができるように運行しております。洞爺高台地区は、洞爺地区コミュニティバスをとうや水の駅で接続させ、買い物支援バスの利用が可能となっております。

ご質問のございました対象外の地区でございますけれども、これまで利用希望がなかったため、現在の運行ルートには入っておりませんが、今後、利用希望を再度確認し、便数または運行手法、ルート運行が可能かどうか、また、予約運行としての運行が可能かどうか、そういった部分をしっかり検討してまいりたいと考えております。

また、まずは対象となる関係する自治会に、しっかりと利用希望等の確認をしてまいりたいと考えております。

○議長（佐々木良一君）　９番、板垣議員。

○９番（板垣正人君）　そのとおりやっていただきたいと思います。この間まで自分の身内がそばにいたから良かったとか、また、娘さんが１週回に１回来てくれて、買い物をしてもらえるのだとかという方もいましたけれども、だんだんそれも、娘さんが別なところに引っ越しされたりなんかすると、またそれで縁が遠くなってきてということで、なかなか自分では行けないという方もいるみたいなので、そういうことも考えて検討していただきたいと思います。

もう一つ、高齢化が進む中ということで、今年は地方統一選挙がある年であります。我が町も前半の知事選、その後の町議選というのがありますけれども、投票所に関して、私は、洞爺湖町でやっている投票場全部、靴を履いたまま土足で投票できるのかなと思っていたら、ある一部のところでは、靴を脱いで、そしてスリッパか何かに取り替えて、そして投票しな

ければいけない箇所もあるということで。ある方に聞いたのですけれども、若いときはもちろん良いのだけれども、年配の方など、杖をついて歩いていたりなんかして、靴を脱いだり履いたりするのが面倒くさいから選挙に行かないという人も中にいるのです。過去に、何年か前なのだけれども、それは別な人です。行ったときに、靴を脱いで入っていって、帰ってきたとき靴がなかった。間違えられたみたいで、そんなこともあったということを聞いて、それから私は選挙に行っていませんみたいな人もいました。

選挙に行くときぐらい、投票所ぐらい、靴を履いたままの格好で投票してもらうようなスタイルにしたほうが良いのではないのという質問でございます。その辺の考え方。また、私は今、虻田のコミュニティセンターのことで言っていますけれども、そのほかにも靴を脱がないといけないところがあるのか、ないのかも含めて、町の考え方をお聞きしたいと思います。

○議長（佐々木良一君）　佐々木総務部長。

○総務部長（佐々木清志君）　ただいまの質問でございます。

まず、現在、町には全部で８カ所の投票所がございます。その中で、靴を脱いでの投票所という形では４カ所ございまして、虻田地区の入江にございます旧青少年会館、あぶたコミュニティセンター、また、あぶた母と子の館、なるか愛郷の家、農業センターの四つでございます。

なお、この四つの有権者数につきましては約3,900人、全体の大体50％の方が靴を脱がなければ投票できないというふうになってございますけれども、現在、選挙管理委員会におきましても、高齢者または車椅子というような部分で対策を講じておりまして、一番先にやっているのは斜路、まず階段、段差がたくさんありまして、斜路を設置しております。これらの利用状況からわかることなのですけれども、実際に旧虻田町のときにはコミュニティセンター、旧青少年会館という建物で、マットというのですか、臨時的に全部土足のマット等の試験実行をしたことがございますけれども、たまたまその日が雨天で、雨で余計滑るですとか、いろいろ気温によってマットがたわむというか、波打つような状況もございまして、危険であるということで止めた経緯もございます。

また、現在、選挙管理委員会で検討しているところでございますが、靴を脱いで、この付近に代わる公共施設もないことから、現在、投票所の環境の向上と高齢者対策ということで、投票所への送迎サービス、これは西胆振、うちしかやっていないということで、自慢になる部分でございますが、高齢者を家から投票所まで行って投票していただいて、家まで送り届けるということの送迎車サービスなんかを実施しております。これに代わりまして、実際に杖をついてきている方が車から降りるときも介助しますし、段差のときも少し腰ですとか肩を支えてあげるだとか、そういうサービスもしているところでございます。

また、前回、高校生ボランティアということで、参議院選挙のときに、入り口関係で高齢者のお手伝い等をお願いしたこともございますが、今、議員おっしゃいました高齢化率が40％を超えている地区でもございますので、いろいろな工夫が考えられるのではないかとい

うことで、先般、選挙管理委員会にもご報告し、工夫していこうということで、お答えさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（佐々木良一君）　９番、板垣議員。

○９番（板垣正人君）　今、部長言われたとおり、高齢者はどんどん増えていくわけですし、また、高齢者の方というのは選挙に結構行くのですよね、投票率でいったら、若い人に比べると。そういう方の、本当に大事な大事な方々を、今までどおりというのではなくて、今、これからちゃんと考えていくという話ありましたけれども、そのとおりやっていただきたいと思いますけれども、やはり靴を脱いでという場面、葬儀と選挙と一緒にしたらまずいのかもしれないけれども、靴を脱ぐ場面というのは、お寺なんかに行くとありますけれども、ほとんどないですよね。ほとんど椅子が当たり前の状態になっています。

また、皆さんもたまにホテルなんかに行って宴会なんかやると思いますけれども、ほとんど椅子になってきました。そういう点で、それだけ高齢者が増えてきたということで、いろいろな対応をしているわけです、各ホテルはお金をかけて。当町に関しては、靴を脱いで何だかんだ、介助はいても、靴を脱ぐのは本人だし、そういうことも大変だと思うので。おっくうがるのです、まず行くのを。その辺のことを考えていただいて、きちっとした対応をしていただきたいと思います。その辺は部長はちゃんとやると思いますので、それ以上は言いませんけれども、何とか今回の選挙から少しは変わったよと思われるようなことにしていただきたいと思います。

それと、送迎サービスですけれども、僕、認識不足ですみません。これは、期日前投票も含めた送迎車サービスなのか、当日だけの送迎車なのか、そこだけ確認したいと思います。

○議長（佐々木良一君）　佐々木総務部長。

○総務部長（佐々木清志君）　ただいまの件でございますが、当日の対応となっております。

以上です。

○議長（佐々木良一君）　板垣議員。

○９番（板垣正人君）　当日だけということですね。わかりました。これも本当は、期日前が始まった時点で、申し込みがあった場合は、数もいろいろあると思いますけれども、選挙に投票していただく、期日前ということは、本町の役場と洞爺地区の２カ所ですよね。だったらそのまま行けるわけですし、別に当日でなくても良いわけだから、その辺もこれから検討していただきたいと思います。

次に行きます。２番の平成31年度教育行政執行方針についてということで質問させていただきます。

新学習指導要領が2020年度、今回、小学校に特化しますけれども、小学校から実施されるが、その対応、特に外国語教育の導入に関して伺いますということで、質問させていただきます。

これは、基本的には2020年度から、今回の執行方針にもありましたけれども、「特に小学

校では、外国語やプログラミング教育が新たに導入されます。学校と連携を取り合って効果的でスムーズな授業づくりを進めてまいります」ということなのです。

私、聞きたいのは、ＡＬＴ、英語を教える教師がいますけれども、この方々は今まで、もう25年以上前から来ているのかな、歴史的にあると思いますけれども。この方の来ていただいている、教員委員会の考える効果というか、やっぱりＡＬＴがいてありがたいなということがもしあったとすればお聞きしたいと思います。

○議長（佐々木良一君）　天野教育次長。

○教育次長（天野英樹君）　ＡＬＴは、日本語で言えば外国語指導助手ということで、通称ＡＬＴということで呼んでございます。

それで、まず、ＡＬＴの主な職務内容ということで、初めにお話をさせていただきますが、町内の小学校及び中学校において、外国語担当教員の助手として職務に従事するということで、当町には現在、アメリカ国籍の女性が１名、昨年８月に新たに着任して、その職務に当たっているところでございます。ＡＬＴの報酬など勤務条件については、洞爺湖町招致外国青年任用規則ということで定めてございまして、最長５年間同一人物を任用できることとなっているところでございます。

それで、今、議員からのご質問の期待される効果ということでございますけれども、１つ目として、外国語担当教員等を英語でサポートすることができること。それから２つ目として、生きた英語の提供ができること。それから３つ目として、児童・生徒のコミュニケーション意欲や学習意欲の向上などが挙げられてございます。

また、ＡＬＴを任用した場合については、財政面での交付税措置があるという状況になっているところでございます。

○議長（佐々木良一君）　９番、板垣議員。

○９番（板垣正人君）　今回こういう質問をさせていただくのは、当町は、30年度は少し改善しているのかなと、これ中学校の資料ですけれども、学力がなかなか全国までいかないとか、全道でも落ちているみたいな話を前までは聞いておりました。その中で、洞爺湖町、人口が少なくて、こんな田舎町なのだけれども、観光地を控えていますので、どこの地区に行っても外国人が今たくさん来ております。そういった中で、洞爺湖町は、小学校の英語の力の入れ方がすごいよねと言われるぐらいなまちづくりもあるのではないかなと、教育版のまちづくりということで。

それで、何を質問したいかというと、ＡＬＴの良いところをたくさん、今、次長のほうから説明ありましたけれども、ＡＬＴの数を増やしたら良いのではないか。１校に１人と言いたいのですけれども、温泉小学校は規模も小さいし、せめて２人とか、今１人いるのであれば、プラス１とかプラス２とかと。

今、天野次長が最後のほうに、交付税措置があるというような話がありました。私も調べたところ、ＡＬＴを１人採用することによって、１人年間500万円の交付税措置がされるということがありました。ということは財政的にも、ＡＬＴを使うことによって、採用するこ

とによって、多少は出るかもしれないけれども、そんなに大きな財政的には負担はかからないのかなと。そういう制度を利用したほうが良いのではないかというのが一つと。

要するに生の英語と先ほどありましたけれども、それは始終聞いていたほうが良いという。私も商売上というか、洞爺湖温泉に住んでいるものですから、その日によっては、お客さん来ても日本語を一言もしゃべらないときもあります。そういうときもありますけれども、ネイティブスピーカーとかという、本当の生の英語というか、そういうものを聞くことによって、それも小学生のうちからどんどん英語教育というか、興味を持っていただいて、勉強することによって、国際的にもいろいろ良い方向に行くと思いますし、恐らくここに座っている方全員が、最低でも６年間英語を勉強したと思うのです、学生時代。卒業して、６年も勉強して、外国人が来たときにぱっぱとしゃべれるかといったら、そんな人はなかなかいないのですよね。だけれども、ネイティブスピーカーという形の中で、ＡＬＴとか、本当の英語の発音とか、楽しく感じる会話とか、身につくことによって、英語に興味を持っていただいて、いずれ大人になったときに、洞爺湖温泉小学校に行って良かったなというような思いがあるぐらいな教育というのはできないのかという思いで、ＡＬＴを増やすということで、その点で聞きたいと思います。いかがでしょうか。

○議長（佐々木良一君）　天野教育次長。

○教育次長（天野英樹君）　複数のＡＬＴを任用して、特色ある本町の教育を進めてはどうかというご質問でございますけれども、議員ご承知のとおり、新学習指導要領が、2020年度ということで実施されるということで、その対応について、平成29年度に校長会と協議をして、話をしてきたところでございます。それで、2020年度でございますから、今年の平成30年度、それから31年度は移行期間ということで、文部科学省からある程度、こういうことでもいいですよということで話が来てございました。そんなこともあって、平成29年度に校長会と協議をしてきたところで、新たに入るということで。そのときに、複数のＡＬＴの配置についても、実際に話題として出たところでございます。

その結果として、学校側からの話としては、２名までは要らないのではないかということで、移行期間については、今１名と先ほど申し上げましたが、１名ということで今入っているということでございますが、ただし、移行期間中の今年、それから31年度、移行期間中の対応を見ながら、状況によっては再度協議をしましょうということで、今日まで来ているところでございます。

現在において、校長会からＡＬＴの増員の要望はございませんけれども、当町の外国語教育をどのようにすべきかなど、校長会などともよく相談しながら、今後検討させていただきたいと考えているところでございます。

また、交付税の関係ちょっとお話が出ましたので、私のほうからもさせていただきます。交付税算定の関係でございますが、地域振興費の外国青年招致人員等として、５月１日現在の配置数により算定されているところでございます。当町の平成30年度分の交付税算定額については、財政当局に確認しましたところ、正確に出るものではございませんけれども、

360万円ほどが基準財政需要額として算定されているのではないかということでございます。結局、先ほど議員から500万円程度とあったのですが、ある程度数字があって、そこに補正係数、何とか係数、何とか係数とどんどん掛けていくものですから、実際には相当減るということで、360万円程度はないかということになっているところでございます。それで、平成30年度のＡＬＴの当初予算ということで、529万9,000円ということで、360万円ほどが基準財政需要額に算入されているのではないかというような状況になっているところでございます。

○議長（佐々木良一君）　９番、板垣議員。

○９番（板垣正人君）　詳しく説明ありがとうございます。交付税、私は大体500万円、これネットで調べた段階で、そういうことが書いてあったので、単純にそう言いましたけれども、当町としては360万円ぐらいかなと。それは少しは負担があるのかなと思いますけれども、そんな大きな金額ではないと思いますので、それで当町の子どもたちが、小学生が本当に英語に興味を持っていただいて、中学校、高校といったら、温泉小学校出身の子は本当に英語すばらしいねと言われるようなことになるかもしれませんし、また、外へ出ると外国人の観光客だとかがたくさんおります。また、働いている方もいますし、そういう方とも何かの交流があったら、もっと興味を持ってもらえるのかなと思ったり、また、イベント等でも交流があったりとかと、そういうことも含めていったら、話ができるということだけで本当に幸せな感覚になると思いますので、本当に特色ある教育と、言葉では簡単に言いますけれども、そういうことも大事だと思いますので質問させていただきました。何とか検討していただいて、少しでも前向きにやっていただきたいと思います。

以上で終わります。

○議長（佐々木良一君）　これで、９番、板垣議員の質問を終わります。

ここで、11時20分まで休憩をいたします。

（午前１１時０６分）

○議長（佐々木良一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午前１１時２０分）

○議長（佐々木良一君）　一般質問を続けます。

次に、２番、越前谷議員の質問を許します。

２番、越前谷議員。

○２番（越前谷邦夫君）　２番、越前谷でございます。ただいまから、通告した案件について質問させていただきたいなと思います。

今回、毎度申し上げておりますが、一般質問というのは政策論争の場であるわけでありますから、できるだけ対極的に質問しながら、町長の見解を伺っていきたいなと思います。特に３月会議というのは、予算議会もありますから、そのときもまた具体的な質問等をさせていただきたいなと思っております。

一般質問というのは、当然なことに提案型の質問の仕方、あるいはまた、誘導型の質問の仕方もあろうかと思います。私は今回は、この４月は議会の改選期であるわけでありますから、果たして自分も席が確保されるのか、されないのか危ぶまれる環境にあるわけでありますから、６月、できないのではないかという懸念の中から、自分の洞爺湖町の将来の町に対する思いと、それから理事者の思いというものを、見解を語り合いながら、質問しながら、将来の洞爺湖町の町の進むべき環境というものは、どういうものを特にやらなければならないのかということをまず伺っておきたいなと思います。

そこで、早速でございますが、平成の大合併というものがございました。これは、小泉政権ができて、地方分権と言って地方に権限を移譲させようではないかと。そしてある程度の財源もフォローしようではないか、その代わり「三位一体改革」と言って、年々地方交付税を減額するぞと。これがどんどん進んでいって、そういうことならば、現在ある各自治体が存続するというのは不可能だろうということで、周辺との合併が進められた。

当時、全国の市町村というのは3,229自治体がございました。15年ほどで半減されまして、1,718自治体まで減少したわけであります。その大合併によって、地方を元気にする地方分権というものを打ち出しながら行った結果、いわゆる合併したその地域が、過疎化が進むという現象も随分見受けられるようであります。

洞爺湖町の場合はどういうことかというと、旧虻田町と旧洞爺村が合併をいたしまして、当初、洞爺地区のほうから聞こえてきたのは、吸収合併ではないのかという懸念の声が聞こえてまいりました。当時の町長も初め現在の真屋町長も、決して吸収合併ではないよと、対等合併ですよと、そういう路線をしっかりと今日まで打ち出してきているわけであります。

しかし、全国的に大きな課題となっているのは、人口減少課題、それから高齢化社会の導入、この二つの波がどんどんどんどんと地域のほうに打ち寄せてきている。そのことによって、自治体そのものの運営も極めて厳しい状況下に陥ってきているというのは、今日この場でいる方々は全員、同意、合意をしている、共有していることだろうと思っております。

洞爺湖町そのものも人口減少が進んで、先ほどの９番の質問でも明らかになっておりますように、１年間で約200名の人口が減になっていると。自然減少ということになっていると。そういうことになりますと、2040年は洞爺湖町そのものが4,000人を切る自治体になるだろうと予想されております。

私は、こういうことになると、極めて極めて危惧せざるを得ない課題というものが、昨年の７月に国の政策として、例えば昨年の４月に、総務省の有識者研究会の中で、2040年ごろには全国そのものが人口減になって、これからその自治体が生き延びていくのはどういう路線があるのだろうかなという協議をした結果、このことが大事なのです。圏域にしてはどうかというのが有識者の答申であります。

この圏域というのは、周辺の自治体が一緒になって、何てことない平成の大合併に続く合併路線ですよ。そうすると、この洞爺湖町そのものも、当然なことに、そういう圏域ということになると、大きな都市部と言いましょうか、この周辺だと、室蘭を拠点にした圏域自治

体というものが全面的に出てくるのではないか。そういうことになってはならないということから、広域行政の一環として、消防の事務組合あたりが一本になってやっている。だから今の首長あたりは、当然圏域には反対の論があるだろうと思います。しかし、反対の論があったとしても、自治体が生き延びていかなければならない。一単独の自治体が生き延びていくためには、どういう手法をとっていかなければならないのかということが大きな課題になってくるでしょう。

したがって、第１期の洞爺湖町のまちづくり総合計画も終わりまして、第２期総合まちづくり計画に入って、３年度目に入ってきます。したがって、どういう地域社会を建立しながら、自治体そのものが生き延びていく道を、みんなで英知を出し合って、毎度申し上げておりますが、行政も議会も一般住民も、三者一体となって、この町で安心して安全に生活できるような、そういう自治体というものを建立していかなければならないと思っております。

私は、そこで、町長の考え方もさらに伺っておきたいなと思うわけでありますが、合併というのは、あめとむちによって平成の合併が成り立っていった。ところが、あめとむちというのが今後もあるかというと、国の財政事情から言っても、そう甘いものではないだろうと思います。だとするならば、先ほど申し上げましたように、どういう地域振興策を打ち出しながら、この洞爺湖町を飛躍していく、そういう施策・方策を打ち出さなければならないだろうと思います。

実は昨日、某福祉法人が建設計画を進めている課題で、景観条例の制定というものを打ち出していました。私も景観というのは守らなければならない。景観条例というのも場合によっては必要だろうと思います。

ただ、私は私なりの考え方を述べさせていただきます。今まで、かつて私どもは、企業誘致を図らなければならないということも声を大にしてきました。しかしながら、公害などの発生する企業であるならば反対だぞと。だけれども、この福祉法人が建設しようとしている、入所者120床。働く、雇用される方々は約80名と聞いております。だとすれば、考えてみてください。考えるべきだとも思います。どんどん人口減が進んでいく。しかし、洞爺湖町をしっかりと堅持していかなければならない。だとするならば、そういう働く場所の確保というのも重要ではないでしょうか。

私は、さらに申し上げたいのは、人間の尊厳といって、人間が生涯を閉じるときに、どういう環境の場で生涯を閉じるかということも考えてあげるべきだと思っています。これは自分の考え方です、あくまでも。現在まで、高齢者の方々やら、入所されてくるでしょうその方々は、血みどろになってこの地域を創造してきたり建立してきた人たちではありませんか。その人たちが、カーテンを開けると洞爺湖が見えて、中島が見えて、遊覧船等が走って、前庭に出ると羊蹄山がそびえ立って、そういう生涯を送れる施設がこの町に、誇りを持って私は建設させるべきではないのかなという気がしてならないのであります。

景観も、それから環境権も生存権の一部です。人間が生存していくためには、景観だけではこの町の存続というのは難しいだろうと思います。それと観光と地域経済の誘致というも

のも私は重要視する必要性があるのではないかなという気がしてならないのであります。

したがって、今、昨日の質疑も聞いておりますと、真屋町長もなかなか板挟みになっている面もあるのか、それとも絶対に景観を荒らしてはならないということでの対策に苦慮している面もあろうかと思いますけれども、私は、何といっても今の建設材料によっては、景観に優しい塗料であるとか、景観に優しい材料等もあるのであります。そういったことも建設予定者のその方々に通告するとか、そういう方法をとりながら、この建設計画というのは私は絶対に良しとするべきだと思っています。

かつて、隣町の豊浦町は、何とかこの施設が残っていただきたいという誘致合戦をしました。大滝もそうです。確かに、施設をつくることによって、水道工事をするのに3,000万円、あるいは下水道を流すのに8,000万円、しかしこれも、先ほど三位一体改革の中で、ある程度の財源を確保してあげましょうというのが、合併特例債であるとか、あるいは過疎債で充当できるのではありませんか。だとすれば、洞爺湖町の持ち出しは２、３千万円で済むはずですよ。

合わせて、私は、その後の地方交付税というのが4,000万円前後入ってくるでしょう。その地方交付税が入ってくることによって、多くの住民の要望に応えられる財源だって、そこに生まれるのではありませんか。住民の方々やら、あるいはまた、他町村の声を聞きますと、あれもやれ、これもやれという声も聞こえてくるのは実際にあると思います。押し寄せてきているわけであります。

しかし、31年度の一般会計予算も約70億円。この70億円でいろいろな事業、いろいろな安心・安全に暮らせるような生活環境も整えていかなければならないという、大変行政当局も苦慮して予算編成をしていると思います。反面、住民も我慢するときは我慢しようではないか、こういった声さえ聞こえる。

そういうことを考えますと、私は今回、地域振興の一環として、建設計画が明るみになってきているわけでありますから、洞爺湖観光を躍進するためにも、私はその施設というのは必要である。少子化対策にも必要だ。雇用の場がなくしてどういうまちづくりができますか。少子化対策ができますか。先ほども移住対策、定住対策で議論になっているようでありますけれども、そういう公害施設でない施設が入ってくるのに、なぜ苦慮しなければならないのですか。景観は大事ですよ。景観と、そういう施設の誘致と言いましょうか、それだって大いに、いくらでも結論出せるのではないですか、みんなが安心できるような。私は真屋町長に申し上げたいなと思います。ぜひその建設計画はどんどん進めていただきたいと思います。私は一議員ですから、申し上げておきます。

観光のことも考えています、私は。観光が主体性を持って、洞爺湖町の経済の土台というのは、観光産業を土台とした経済の発展を考えているというのは、言われるまでもなくわかっています。あと、翼は農業、漁業であるということもわかっています。観光は大事です。しかし、洞爺湖町そのものがなくなるような施策・方策だけは絶対してはならないし、そういう環境というのは、いろいろと英知を出し合えばなし遂げられる課題だと思いますけれど

も、町長も、俺にも少しやらせてくれやと言わんばかりのあれですから、町長、ひとつ決意の一端を聞かせていただければなと思います。

○議長（佐々木良一君）　真屋町長。

○町長（真屋敏春君）　ただいま２番議員のほうからいろいろお話をしていただきました。

まず最初に、町の存続の関係からお話をさせていただきますが、平成18年、確かに私どもの町も旧洞爺村と旧虻田町と合併して、そして新町、洞爺湖町が誕生いたしました。お互い、残念ながら財政の厳しい状況の中の合併でございましたが、しかし、国のほうの、合併をすることよる特例措置によって何年間か生き延びられたのも事実でございます。

また、平成19年にできた地方財政の健全化に関する法律、これが平成20年度決算で、ある一定の指数以上の指数になった場合に、財政の健全化団体の指定を受けるということで、１期目の平成22年、町長就任当時から、何としてもこの財政早期健全化団体から脱却し、町民の皆様が自信を持って暮らせるまちづくりを進めなければならない。そのためには、ある意味、町民の皆様の深いご理解とご協力がなければ、なかなかこの早期健全化団体から脱却できるものではございませんでした。

１年前倒しの平成23年度決算で、何とかこの団体から脱却することができましたけれども、指数のうちの一つ、実質公債比率がまだ非常に高い状況があって、事業らしき事業がなかなかできない。合併してすぐに私どもは、３地域の特色を生かしたまちづくりを進めてまいりたいということを訴えさせていただきました。議員、今おっしゃっていただきました観光産業においては、町長就任してちょっと過ぎだと思いましたけれども、東日本大震災がございました。それで、風評被害等により北海道への観光客の入込も非常に極減してしまったというときに、何とかホテル、旅館あるいは土産店、これらの再建策を構築しなければならない。北海道保証協会からの保証が受けられなければ有利な借り入れをすることができない。そのときに議員諸氏のほうから、何とかこの保証協会の融資を受け、さらには町のほうから利子補給の制度をつくってはどうだというご提言もいただきまして、何とかこれも保証協会の保証をいただき、そして低利の融資を受けることができ、さらには町のほうで、その利息に対する利子補給分もさせていただいたところでございます。

おかげさまで、数少ないホテル、旅館ではございましたけれども、観光関係者、行政だけでは到底なし得ない、観光関係者あるいは地域の皆様のご協力とご努力で、目標としていた年間宿泊者数も70万人を平成29年度で達成することができた。今年は、北海道胆振東部地震が９月６日に発生し、その後の風評被害等々でも大変な厳しい状況を迎えるというところでございましたけれども、何とか71万人ぐらいまで今、年度末にはいくのではないか、そういう状況まで来ていた。そして、１年を通じていろいろなイベントをやり、さらには、観光客の方が来られたときの情報提供ということで、地域Ｗｉ－Ｆｉの整備、また、地域に来てくれたお客様を和ませる花いっぱい運動等々に力を入れさせていただき、地域挙げて、今70万人台の大台に乗っているところでございます。

また、洞爺地区においては、やはり自然豊かな景観と、それに伴う農業が主流産業でござ

いました。これまで基幹産業である農業の振興策のために、ナガイモ選別機、小麦乾燥機、あるいはジャガイモ選別機、貯蔵施設、そして31年度予算では人参の選別機、これによりまして、農家が丹精込めてつくった農作物が、さらに出荷が多くなるような、そして農業収益につながるような方策、さらには、合併して当初に、この温泉街、そして虻田地区のみならず、洞爺のほうには相当の投資をさせていただいていたかなというふうにも感じております。

そんな中、洞爺の地区につきましても、非常に融和が優れておりまして、団結力があると。農業についてもしっかり伸びてきているなという感がしております。この間もホクレンが提供していただいた、グローバルギャップの農作物、安心・安全な農作物をテレビコマーシャルで、全道版で流していただきました。うちの一生懸命頑張っている農家の方もそのテレビのコマーシャル一コマに映っておりましたが、本当に自信を持って農作物をつくる、そういう地域に発展してきていてくれているなという感がいたします。

最後に残ったのが虻田地区でございます。今までよく、本当に我慢に我慢、辛抱していただいたなというふうなものがありましたが、昨年から本町地区の道路整備、そして駅前周辺の、これからやろうとする整備、さらには、交通の我が町の拠点であります洞爺駅の周辺、さらには駅のバリアフリー化、そちらのほうにつきましても、ただいま、これからしっかり取り組んでいかなければならない問題だなというふうにも考えております。

そんな中で、先程来、これもお話に出ました。国の施策として、国は相当の借金を抱え、今年度予算が間もなく通ろうとしておりますけれども、過去最大級の予算措置をされているようでございます。そんな中、借金はますます増えていく中で、それをどう財源的に調整していくか、おっしゃっていただいたとおり、地方交付税にその影響が出てきております。

平成28年、29年、30年、この３カ年をとっても、洞爺湖町のほうでは、普通地方交付税で５億3,000万円ほど減額になっております。私どもの町は古くから公共下水道事業を実施しておりました。これも予算措置でまたお話が出てこようかと思いますけれども、今、年間約４億円ほど町の一般財源から支出をしております。そのほか国保会計あるいは介護特別会計、あるいは簡易水道事業、いろいろな事業の特別会計等々に対しても繰出金を出しているところでございます。そんな中、やはり行財政改革をしっかり進めながら、そして町の財源状態をさらに維持していかなければならないなというふうに考えておりまして、町全体の中身を見据えながら予算措置をさせていただいているところでございます。

そんな中、平成の大合併、これは、国のほうも終了したというお話でございますが、今、話題として、私どもも注視していかなければならない問題は圏域の問題でございます。間違いなく今の流れからいくと、広域連携事業、さらには圏域、これがますます、国の財源縮小のために進んでくるのではないかということを危惧している１人でございます。

そんな中、私どもの町として、いかに今後、持続可能な行政運営をできるか、それを考えたときに、今回の企業進出、これについては、私どもも非常にありがたい。町として、町の存続のためにもやはり必要な関係だなというふうに思っております。

ただ、危惧するのは、今までそこで景観を保っていた業者等々もいらっしゃいます。そう

いう関係は、しっかりこれからもお話し合いをしていかなければならないなというふうに思っています。今、そのお話し合いのかけ橋を町のほうが担っておりますが、この間も観光関係者の方々と、今後できる予定のところの報告をさせていただきました。今後は、しっかり議論を進めていかなければならないなというふうにも感じております。とにもかくにも、この町の存続をかけた施策を、これからやはり打ち出していかなければならないなというふうにも思っております。

また、景観の問題でございます。

昨日も６番議員のほうからいろいろご指摘がございました。確かに事務作業が非常に遅れていた、この部分は事実でございますので、これは深くお詫びをするところでございますが、今後はしっかり、やはり英知を出し合って、地域の皆さんのご意見に耳を傾け、偏った意見ではなくて、ある意味町が自立できるような体制の中を目指してまいりたいというふうに思っております。とにもかくにも、今回の来ていただける事業者、こちらのほうには、私どものほうも今いろいろとお願い事をさせていただいているところでございまして、その回答が出次第、また、関係する機関の方々とご協議をさせていただきたいというふうにも思っております。

以上です。

○議長（佐々木良一君）　ここで一旦区切りをして、昼食休憩に入りたいと思います。

午後１時から再開をいたします。

（午前１１時５３分）

○議長（佐々木良一君）　休憩前に戻し、会議を続けます。

（午後　１時００分）

○議長（佐々木良一君）　一般質問を続けますが、午前中の答弁で訂正の申し出がありますので、町長の発言を許します。

○町長（真屋敏春君）　先ほど私、答弁の中で、地方交付税が３カ年にわたって５億3,000万円ほど減額しているという答弁をさせていただきましたが、正確には５億7,500万円でありましたので、修正をさせていただきます。すみませんでした。

○議長（佐々木良一君）　それでは、２番、越前谷議員。

○２番（越前谷邦夫君）　午前中に引き続いて一般質問させていただきます。

先ほど企業誘致のところで、何か反論があったようでありまして、私は私なりの考え方、それから、自分のまちづくりに対する基本理念も含めて申し上げたつもりであります。何といっても、やはり景観も環境権も連動しているわけです。そのことをしっかり受け止めなければならないと思う。環境権というのは、先ほど申し上げましたように、生存権の一部であって、そのことをしっかり受け止めて、これからもまちづくりを進めてもらいたいなと思っております。

それでは、時間の関係上、具体的に細部にわたって伺いたいなと思ったのですが、なかな

か、先ほども予定時間も、自分の思っていた予想時間が過ぎでおりますので、割愛する案件があろうかと思いますけれども、その点についてご理解をいただければなと思っております。

何といっても、先ほど申し上げましたように、地元企業育成であるとか、あるいはまた、雇用の場を確保しながら、少子化に対する抑止力の一環として、そういう事業の誘致もやはり可能にするべきだと。それは、自分はそういう考え方を持っていますから、どなたに批判されても同じ、考え方を持っておりますので、理解していただければなと思います。

今、やはり地域振興ということで、いろいろ事業を起こしたり、あるいはまた、いろいろな施策・方策を持ちながらまちづくりを進めて、洞爺湖町の創造に全力を挙げているわけでありますけれども、その中で、最近、特に私は治安の関係で懸念する思いを持っているのです。

治安というのはどういうことかというと、答弁できますか。治安というのは、いわゆる国家や社会の秩序を守るという、守られて、異変がないこと。いわゆるふだんの秩序が守られているのが治安であります。

そこで、私はいろいろなことを例に挙げて、洞爺湖町のまちづくりの中に、治安と言ったら大げさになるかもわかりませんけれども、とりわけ防犯に対してもう少し、全エネルギーを傾注する必要性が出てきているのではないかなと思っております。

それというのも、日本にたくさんの外国人が、約300万人近くも居住されている。あるいは、とりわけ洞爺湖町におきましても、外国人の方々が居住されていると。それと合わせて、外国のほうから各産業に働きに来ている研修生もおります。そういったことを考えれば、何といっても、いかにどういう共生社会をつくるかというのを、やはりもっと私ども前向きに考えなければならないのではないかなと思っています。というのも、文化の違いがあります。

倶知安あたりの町の中で、外国人と一緒に集落の中で生活していると、一つには、言葉の違いから、コミュニケーションが悪いと、成り立っていないと。それからもう一つは、特にごみ問題が、文化の違いなのでしょうか、ごみ問題が大きな、いろいろな自治会として行政に参画しながら、その地域社会をしっかり、すばらしい環境を整えるために努力をしている自治会であるけれども、なかなか外国人はその辺を理解してくれないということもございます。

それから、合わせて洞爺湖町におきましても、洞爺湖温泉でこういう相談が寄せられました。いわゆる民泊に泊まっている外国人がいるのですけれども、やはりごみの処理の関係で、地域周辺の方々にも苦情が出ているということが、相談が寄せられたわけでありますけれども、そういう問題点であるとか、あるいはまた、いろいろ洞爺湖町の本町地区におきましても、今、駅に一旦外国人観光客が来ると、前浜のほうに歩いていって、いわゆる海岸通り、かつては、国際海岸通りと名前を変えたほうが良いのではないかというぐらい外国人観光客も来ております。やはり言葉の違いから、ちょっとしたトラブルもないわけではないようです。したがって、そういう環境をどう整理して、どう是正するのかということもやはり考える必要性があるのではないかなと思っています。

それから、私も実は経験したことなのですが、山を歩いて、どんどん大柄の方が近づいてきて、もちろん外国人であったわけですけれども、必ずしも外国人が悪い人たちばかりだということでは絶対ありませんよ。舌足らずで、誤解されたら悪いけれども。しかしながら、近づいてくるにつれて、自分は横文字は全くだめなものですから、話しかけられた大変だなという思いで前を走っていったら、その方がどんどん自分に近づいてまいりまして、何か話しているのだけれども、その内容がわからないだけに、何か怖さを知ったのです。そういうことというのは自分ばかりではないような話も伺っておりますから。そういうことで、やはり防犯力の堅持と言いましょうか、そういうことにも行政として努力をする必要性があるのではないかなと、そんな思いを持っております。そのことで答弁できれば、簡単で良いですよ。簡単で結構ですから。

○議長（佐々木良一君）　山本住民課長。

○住民課長（山本　隆君）　外国人の状況につきましては、ここ数年、議員おっしゃいますとおり、増加傾向になってございます。議員のご心配もごもっともなことだと思います。

反面、外国人との共同生活上のトラブルや道路上での写真撮影など、交通安全上の危険行為などにつきまして、町のほうに若干情報が寄せられております。今、議員おっしゃいましたように、外国人と町民とのトラブルというのは、ちょっとまだ耳に挟んでいないような状況でございますので、これから他市町村の状況についても確認をさせていただいた中で、検討と言いますか対応策を、何かないかちょっと考えてさせていただきたいと思います。

○議長（佐々木良一君）　真屋町長。

○町長（真屋敏春君）　外国人の方の対応でございますけれども、特に観光客の方、今、議員おっしゃっていただいたように、汽車の待ち時間に海岸通りを歩いておられる。あるいは虻田神社の鳥居の前で写真を撮っておられる。多く目にするわけでございますけれども、やはり言葉の違いと言いましょうか、文化の違いと言いましょうか、非常に困惑する場面も多々見受けられております。

例えば洞爺のいこいの家、あそこのお風呂でございますけれども、ふだんは、日本人は裸になってお風呂、入浴するわけでございますが、自国の勘違いなのか、着物を着て、そして入浴をしていた。同じ入っていった日本人の方がすぐ番台に寄って、何とかしてくださいというお話もあり、早速張り紙を英語版で設置をさせていただいた等々の関係。あるいは今のごみの問題、特に民泊で泊まっておられる方がごみを出して、それが自治会とトラブルを起こしている等々の苦情も入ってきております。それはその都度対応させていただいているわけでございますけれども、やはり町全体として、その課その課だけで対応するのではなくて、インバウンド対策というのは、やはりしっかり、たくさんの方が来ていただいておりますので、それに見合ったものは町としても考えていかなければならないなというふうに思っております。

ただ、今すぐ何ができるのかというのは、これから十分検討していきたいなというふうに思っております。

○議長（佐々木良一君）　２番、越前谷議員。

○２番（越前谷邦夫君）　今、理事者も述べられておりますけれども、いわゆる日本の観光地といったらやっぱり京都ですよね。今、京都は観光公害と言われるぐらい、今日もテレビでやっておりましたけれども、観光公害といって、日本の国民の方々が京都の観光地を守るという、そういうモラルと、やはり文化の違いなのかどうかよくわかりませんが、商売をやっている店の中に入ってまでも写真を撮ったり、それから、舞妓が歩いているけれども、その舞妓の着物を引っ張ったり、写真撮ってくださいと肩をつかんだりとか、こういう現象が生まれていて、今、京都では、観光公害といって、本当に深刻な問題であるということが話題になっておりました。

したがって、洞爺湖温泉については、そういうことはないのかもわかりませんけれども、もっともっと外国人に来ていただけるように、やはりトップセールスなどもやって、どんどん来ているのはわかるのですが、やはりモラルを守っていただける。あるいはまた、受け入れ態勢のしっかりとした体制の構築を図らなければ、そのことでトラブルが発生して云々ということになりかねませんので、防犯力と観光のあり方というのも、やはりもう少し謙虚に、原点に返って考える必要性があるのではないかと思うのですが、経済部参与、いかがでしょうか。簡単で結構ですから。

○議長（佐々木良一君）　鈴木経済部参与。

○経済部参与（鈴木清隆君）　観光の面からお話しさせていただきます。

一つには、観光客が安心して楽しんでいただける。また治安も重要であります。洞爺湖においては、毎月イベントなどを開催しておりますが、事故のないように警備を行っております。

ただ、近年やはり外国人観光客が多くなっているところでありまして、多言語が洞爺湖温泉では聞かれるところでもあります。たらればのないように気をつけてまいりたいと思います。また、モラルという部分では、議員おっしゃるとおり、トイレの入り方、これも地域によって、桶にトイレットペーパーを捨てないとか、そういう風習の中で、いろいろと掲示をしていきながら、日本のルールに合った部分をお願いしているところであります。

先ほど町長もお話しした民泊のところでございます。地域住民の方からのいろいろと不安になるお話も伺っておりまして、この間、自治会連合会においても、外国人のことでいろいろお話を伺ったところでもございます。そうした部分では、しっかりと町として、地域の方々から情報などをいただいて、安心して住める場所にしていきたいと思います。また、当然でありますが、観光客の方々も安心して観光できる環境を整えてまいりたいと思います。

それと、京都のほうの部分でありますけれども、最近、京都のほうでは、日本人の観光客が外国人の多さの中で離れているという情報も聞いています。しっかりと日本人の観光客の方々も、この地域において安心して観光ができる地域として整備をしてまいりたいと思っております。

○議長（佐々木良一君）　２番、越前谷議員。

○２番（越前谷邦夫君）　わかりました。

外国人の件で質問させていただきますので、ついでに、外国人の滞在状況であるとか、あるいはまた、公営住宅の活用方法であるとか、その辺の行政の基本的な考え方を伺っておきたいなと思っております。

今、日本で暮らす外国人が年々増え続けております。経済協力開発機構の統計では、2016年の日本への移住者、42万人を超えたということになっております。加盟国といたしまして、35カ国です。移住者を受け入れている35カ国で、ドイツ、アメリカ、イギリス、４番目が日本なのであります。そのように、非常に外国人観光客も含めて、移住者もどんどん押し寄せてきているという状況下にあるわけであります。法務省あたりの発表によると、在留外国人は、18年６月末時点で約264万人にもなっているということであります。

したがって、何を言いたいかというと、洞爺湖町あたりも国際観光都市でもございますから、外国人が多く来る。あるいはまた、周辺の良さをしっかり受け止めて移住してくるという、実際に青葉にも移住者がいます。そういったことで、住民とのやはりコミュニケーションのなさも指摘されている状況であるわけでありますけれども、もっともっとこれから、政府の入管難民法等が去年改正されました。４月から入管難民法が成立されて運用に入るということであります。新在留資格によって、外国人労働者の受け入れは拡大するということで決めたわけでありまして、改正法に基づいて、例えば特定技能の１号を取った方は、政府あたりは、５年間で約34万人にするという、そういう政府の考え方もございます。そして、難民改正法によって、実習生で来た場合に５年から10年までいられると、10年まで滞在できるという、これも人手不足ということでございますけれども、そういう法律が制定されたわけであります。

したがって、今ここで伺いたいのは、簡単で結構です。洞爺湖町の外国人滞在者は何名なのでしょうか。

○議長（佐々木良一君）　佐々木総務部長。

○総務部長（佐々木清志君）　それでは、お答えいたします。

現在、３月１日現在で100名ちょうどでございます。なお、内訳を申しますけれども、虻田地区が29名、温泉地区が56名、洞爺地区が15名の100名でございます。

以上でございます。

○議長（佐々木良一君）　２番、越前谷議員。

○２番（越前谷邦夫君）　わかりました。

それで、実はこういうことを提案させてもらって、行政の考え方を伺っておきたいなと思うのです。今、前浜あたりも、やはり実習生ということで受け入れて、外国人を雇用されております。当然、前浜は、ご存じのように昨年度のへい死によって非常に経営状況が悪化をたどるような環境にあります。

このへい死の原因というのは一体何なのかということで、私も非常に関心のある件なのですが、例えば海流の流れが悪いのではないかとか、過密状態でないのかとか、あるいはまた、

海水の温度が影響あるのではないのかということも、自分はそんな思いを持っているのですが、実は、皆さんご承知のとおり、海流の流れはそうではないのですね。というのは、留萌海域でもホタテのへい死が発生しているということなのです。非常に年々増えてきているということなのです。

したがって、非常に漁民の方々は、外国人の就労者を雇っても、なかなか経営状況が悪化しているだけに、雇うということは困難な状況であるけれども、しかし、借金してでも外国人就労者を雇わなければならないという、そういう人たちもいるわけです。

そこで、一番の課題は、住むところが大きな課題だと言われております。自分の耳に入ってきているのは。したがって、その課題を何とかクリアするためには、例えば住宅問題であります。その住宅問題で、ぜひこうあってほしいというのが、自分の耳にも受けたわけでありますけれども、それはどういうことかというと、なかなか外国人を、研修生を呼んでも、そういう改正法によって、いろいろな保険、環境等々によって、完備するというのは、我々の財政力では厳しいと。したがって、何とか、住宅でいけば、公営住宅あたりも低家賃で入居できるようなことにならないだろうかと。それとも行政が窓口になって、行政が介入して、いわゆる民間のアパートなども低料金で入れるような、行政の働きかけによって入れるような環境にならないだろうかと。こういう切なる声が聞こえております。

したがって、私は、前浜の漁民の状況などを危惧している１人として、やはり住宅を提供するとか、そういう手法もとってあげるべきではないのかなという気がするのですけれども、経済部長、いかがでしょうか。

○議長（佐々木良一君）　八反田経済部長。

○経済部長（八反田　稔君）　外国人労働者の住宅対策でございますが、まず、さっき議員言われていました町営住宅の関係を申し上げますと、町営住宅につきましては、外国人だからといって規制しているものはございません。現実に洞爺湖温泉地区の町営住宅において、夫婦で、それから、子どもがいる外国人世帯の方も入っていただいております。ほかに、入居要件としては、一般の方と同じ、一定の条件がございます。改めて申し上げますと、公営住宅法にある、午前中にお話ししました低額所得者であること。それから保証人がいること。これは事業主でも構いません。その他、住民票があることと。それから、細かく言うと、団地の決まり事を守っていただいて、共益費もしっかり払っていただければ、基本的には入っていただけるということでございます。

しかしながら、ちょっと懸念するのは、その中で、家族ではなくて単身で来られている方もいらっしゃるのかなと思います。それで、昨年、私どもとしては、町営住宅につきましては、単身も入れる公営住宅として、洞爺湖温泉地区には柳川通り団地、それから本町地区については泉公園団地がございまして、まだ空き家もございますので、ご活用いただければと思います。

以上です。

○議長（佐々木良一君）　真屋町長。

○町長（真屋敏春君）　個々の外国人の研修生、例えば漁師でいったら、Ａさんのところに働きに来ている人、そのＡさんが苦慮しているだとか、こういう場合の個人個人に対する町の助成というのはなかなか難しいものがあります。現に今、とうや湖農協のほうで何人かの研修生をまとめて、どこどこの施設を何とか利用できないだろうか。それで、今、香川の集会施設を提供させていただいております。漁師の場合も、雇用する側の方々も大変苦慮されていると思いますので、いぶり噴火湾漁業協同組合の本部がこっちにありますので、そちらのほうにまずはご相談なさって、そして、この対策をどうしたら良いだろうかと、漁業協同組合のから洞爺湖町にほうにというふうなことになると、個々の問題ではなくて、町の全体の問題というふうなってこようかと思いますので、もしできれば議員のほうからも、そういうふうなこともお勧めしていただければなと。

○議長（佐々木良一君）　２番、越前谷議員。

○２番（越前谷邦夫君）　わかりました。

それでは次に、高齢者対策のところで、行政側の取り組みをお願い申し上げたいなと思います。

やはり高齢者対策というのは、当然なことに年々増加しているわけでありますから、高齢者対策費というのは予算増になるのは当然なのですよね。今、何を申し上げたいのかというと、実は、先ほどの９番議員も触れておりましたけれども、高齢者の買い物などに行くバス問題が非常に、高齢者の方々からこうしてほしい、ああしてほしい。例えば路線変更して、うちのほうにも何とか来てくれないかだとか、そういう声がある意味では殺到している利用な状況であります。これは以前から質問していますけれども。

全体的に、高齢者の利用する全交通網を今一度見直してはどうかなという気がするのです。いろいろと道南バス等の関係もあるでしょうし。場合によっては、町長、やはりコンテナー方式を考えたならば、少なくともワゴン車あたりを何とか確保して、ワゴン車で対応するようなことはできないのかなという気がするのです。確かに運転手のコスト的なことも問題として出てくるのかもわかりませんけれども、自分、実は、水戸黄門といったら良いほうだけれども、悪党なのかもわかりませんけれども、自分が家にいるとバスがしょっちゅう来るのです。しょっちゅうというよりも、１日９回来るのですけれども、そうすると１人乗っているか乗っていないかです。それでも中型のバスを走らせなければならないのかなと。あれを小型のバスにしたならば、あるいはまた、ワゴン車で対応するとかということになったら、いろいろ要望に対して応えられる環境というものが整ってくるのではないかなという気がするのです。

それからもう一つ、今、高齢者の方々は免許証の返納が非常に増えてきています。非常に増えてきているのです。先日も「俺、車止めたんだわ」と、まだ７５、７６歳でも、事故を起こしたりしない前に免許証を返納して、バス利用しているのだという、こういう人もいました。だから、免許証を返納することによって、そこにバスを利用する人たちが存在してくると。そうすると、今走っている路線が果たして良いのかどうなのかということも含めて、

今日、行政側の見解を伺いたいのは、もう一度、もう１回、買い物バス等のあり方、これを抜本的に見直してはどうかなという気がするのです。それから、見直しするにしても、利用者の方からの声だとか、あるいは高齢者の方々からの声を吸収した中で、どういう交通網にしたならば、住民の方々の希望に沿えるような、そういう状況下になるのだということを、ぜひ前向きに検討してもらいたいなと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（佐々木良一君）　佐野企画防災課長。

○企画防災課長（佐野大次君）　現在の洞爺湖町の交通事業につきましては、平成26年の地域公共交通の再編事業に合わせて、現在の枠組みを構築しているところでございます。その際に、洞爺湖町地域公共交通活性化協議会において、いろいろと将来の運行につきましてご意見をいただいているところでございます。

運行体系といたしましては、やはり持続可能な運行を維持するために、洞爺湖町としては、その運行費用が非常に高いというご指摘をいただいており、その運行費用を抑えるという観点から、現在の運行方法としているところでございます。

また、車両の検討ですけれども、こちら毎年度検討させていただいているところでございますけれども、現在の運行で、やはり乗っていないという区間も、ご指摘のとおりございますけれども、１区間で10人以上乗る区間がございまして、ワゴン運行にした際には２台必要ということになっております。現在の公共交通を組み立てる際に、最も高いのは人件費となりまして、車両の問題よりも大きな問題としては、２台運行することによる人件費、こういった部分をしっかり克服しなければ、やはり現在の運行している利用人数からいくと、ワゴン車での運行というのが現在できないというところでございます。

○議長（佐々木良一君）　総務部次長。

○総務部次長（皆見　亨君）　バスの確保の関係についてでございますけれども、高齢者の入浴助成、これは当町の独自の事業でございまして、これに対する高齢者の足の確保ということで、路線バスを用いて温泉のホテル等に入浴をしていただいているのが現状でございます。これまでこの町に貢献されてこられた高齢者、またこれから、この風光明媚な洞爺湖町に移住して来られる、定住して来ると思われている高齢者の方々、こういった高齢者福祉対策の一環として、やはり足の確保というところについては重要な問題であるというふうに福祉サイドとしても感じているところでございます。

今後、今、企画防災課長のほうからお話がございました、地域公共交通活性化協議会、また、高齢者福祉懇談会、これらでさまざまな皆様からたくさんのご意見をいただきながら、もちろん予算の確保並びに事業実施の必要性の検証や実施体制の整備など、さまざまな問題等をクリアしなければならないところがあるかというふうに思っておりますけれども、多少時間はかかるかもしれませんけれども、近々の問題であるということは認識していることから、なるべく早目に、そこら辺の問題につきましては、皆さんのご意見等をいただきながら、十分検討してまいりたいというふうに思っているところでございます。

○議長（佐々木良一君）　２番、越前谷議員。

○２番（越前谷邦夫君）　今、企画防災課長と総務部次長のほうから答弁いただきましたので、ぜひそういう協議会の中で、もう一度協議を深めていただいて、やはり洞爺湖町の高齢者対策の一環としてのバス利用をどういうようにしたら良いのかということを、もう一度検討を深めていただければなという。もう一度というよりも、検討を深めて、何とか高齢者が不自由なく利用できるような環境というものを整えていただければなと思っております。

それで、産業振興に入らせていただきます。

これは、農業、漁業、観光ということだけれども、観光については、先ほど若干触れさせてもらいましたので割愛させていただきたいなと思うのですが。

実は９月の定例議会で、洞爺湖町のブランドといったら一体何なのだろうかと言ったら、実は、農業ではジャガイモと言いました。それから漁業ではホタテと言いました。ブランドと言われるジャガイモ、ホタテ、まさにそうなのでしょう、そうだと思います。だけれども、農業の関係でいけば、ジャガイモのほかに、新聞、マスコミで、すばらしい良好な、新聞に出たのは、財田米が日本一になったと。だとすれば、こういう財田米そのものも、やっぱり洞爺湖町のブランド品であるということをしっかりと全国にＰＲ、アピールするような、そういう体制の構築を図るべきだと私は思うのです。後ほど言いますが。

それから、ホタテのほうは、今大体、今まででは平年の３割程度だというのです。だけれども、ホタテも洞爺湖町の前浜のブランドだと。かつて、ホタテのブランドといったら黄卵といって、室蘭の一部の方々が非常に全国的にＰＲして、アピールしながら、黄卵の発送なども手がけていたと。ところがホタテの海域等の関係で、ホタテも出荷できないような状態だということで、去年も先一昨年も黄卵の発送が中止になっているのです。

したがって、やはり洞爺湖町あたりも、２年貝よりも３年貝をつくって、そういう付加価値を高めた上で発送できるような、そういう特産品としての役割を果たせるような、どうなのでしょうね、環境というのが整えられないのかどうなのかなというのがちょっと、私は思いを持っているのです。

それで、町長に提案したいのですが、洞爺湖町には、農産物もしかり、海産物もしかり、また、お菓子であるとか、いろいろなジュースであるとか、いろいろな特産品と言われるかのようなものがあると思うのです。したがって、私は、全国的にも、こういうところでこう取り組んでいるところがあるのです。ブランド推進協議会をその町につくって、いろいろな、これは洞爺湖町のブランドで良いよね、これが良いよねといったら、どこどこ洞爺湖町のブランド品ですというシールを張って販売するとか、あるいはまた、地方に発送するとかという。そうすることによって、どんどんとブランド品そのものが、産物がそのものの価値観が高まってくるのではないかなという気がしてならないのです。

それで、一例を挙げさせていただきます。浦幌町では、子どもの郷土教育に力を入れているのです。浦幌町では子どもの郷土教育に力を入れて、地域の将来を担う人材育成する官民協働のプロジェクト、浦幌スタイルというものが今根づいてきているのです。定着してきているのです。

それで、何を申し上げたいのかというと、このプロジェクトに参加しているのは、中学生もいるのです。その中学生の発案で、町の花のハマナスを使った化粧品が商品化されて、販売に手がける地元の地域商社も出てきているのです。これも一つ、やはり洞爺湖町としては、いろいろ特産品の扱い方、ブランド品の扱い方といって考える余地があるのではないかなという気がしてならないのです。何てことない、ブランド品推進協議会などをつくって、これがブランド品だと言ったら、シールをつくって、それを販売する、それを発送することによって、宣伝効果がどんどん出てくると思います。そういう行政指導というものができないのかどうなのかと。

それから、今日のマスコミで報道されておりましたが、実は豊浦町で昨年成立した、隣町です、豊浦町。一般社団法人噴火湾とようら観光協会と。その観光協会と町が連携をして、顧客満足度の高い観光商品を開発して、観光客の誘致に結びつけていくのだという、そういう意欲の表れの報道がなされていました。

やはり洞爺湖町も、考えてみると、これも洞爺湖町のブランド品だよなというものが数多くあると思うのです。したがって、そういうのをどんどん全国的にＰＲしていく、アピールしていく。そういう産物ばかりではなくて、洞爺湖観光の魅力度も私はどんどんと売れてくるのではないかなという気がしてなりませんけれども、そういった取り組みというのはできないでしょうか。できないとするならば、何がネックでできないのか教えていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（佐々木良一君）　真屋町長。

○町長（真屋敏春君）　今、議員がおっしゃるとおり、洞爺湖町にはそれぞれのブランド品があろうかなというふうに思っております。特に、ジャガイモについては、とうや、そしてホタテについては、以前は、とうやヴィーナスということ、さらには地元で、おいしい納豆屋だとか、いろいろな商品があろうかと思いますが、それぞれ、例えばジャガイモ、アスパラ、トウモロコシについて、米もそうですけれども、農業振興課、あるいはホタテについては産業振興課、そして商業についてもどこどこ。今、それが残念ながら担当所管のところだけで処理をしてしまっている。今、総務課が窓口になって、総務部長のところでふるさと納税の商品を提供しております。もうちょっと庁舎内の横断的な横の連絡というか、そこのところが今ちょっと残念ながら途切れてしまっていると。ここのところをしっかりもう一度精査しながら、それぞれの課はそれぞれ頑張ってくれているのですが、なかなか横との連携がとれていない。これはもう、とりもなおさず、町長である私が一番悪いわけでございまして、私自身が横の連携をもうちょっとスムーズにできるように努力してまいりたいというふうに思います。

すばらしいものが本当にありますので、それを生かさない手はないかなというふうに思っておりますので、その辺は、これからも気をつけてやっていきたいと。

○議長（佐々木良一君）　２番、越前谷議員。

○２番（越前谷邦夫君）　今、理事者から答弁あったのですけれども、どうなのでしょうね、

くどいようですが、そういうブランド推進協議会みたいなものつくって、地域の方々が、これが本当にブランド品だよと。例えば、この間、洞爺の冬まつりに行ったら、そばコーナーに行って、たくあんあったから食べたら、そばもうまいし、たくあんもうまい。そこで腹いっぱいになったというような経験も持っているのですが、やっぱりああいうたくあんあたりの、商品価値も高まっているわけでありますから、そういったものも一つのブランド品だよというような位置づけを図れるような推進協議会などもつくって、町民が選ぶと。今、行政ばかりではなくて、町民がブランド品という位置づけを図れるような、そういう環境を私は整えるべきではないのかなという気がするのです。行政でなくて地域の住民の方々が。そのことによって、私は非常に洞爺湖のブランド品といって、他の町、市に負けないような産品があるわけですから、それをもっともっと全国的にアピールすると。

それから、何といっても、洞爺湖町そのもので消費できるような環境を整えなければならない。よく物流だとかと、流通機構の整備だとかとよく聞かされるのですけれども、なんも特産品だって、すばらしいものがあっても、この町で消費というのは少ないという。これでは私は、先ほど言ったように、ジャガイモとうやあたりは、すばらしいジャガイモだということも、送った私のほうに手紙が来ているわけですから、うれしい限りです。そういったことをもっともっと、洞爺湖町のブランド品のジャガイモだよと送ってやれるようなシールを張って、やれるような環境にしたら、もっともっとジャガイモとうやというのが世に羽ばたくのではないでしょうか。例を挙げて言っているのですが、ホタテだってそうです。シソジュースもそうです。まだまだもっとあると思うのです。だからそういったことをもっと地域の方々が選ぶ特産品、選ぶブランド品というような環境をぜひとっていただければなという気がするのですけれども、だめでしょうか。行政ではない、地域でそれをやるようにしてもらいたいなと思うのですが、経済部参与。

○議長（佐々木良一君）　武川経済部参与。

○経済部参与（武川正人君）　今、ジオパークの関係も、ユネスコ世界ジオパークということで、大きなブランド力を生かして地元の資源に付加価値をつけるという意味では、食のカードを、農業生産をしている方のところも歩きながら、今、洞爺湖町の品目、18品目のカードをつくってございます。ふるさと納税の返礼、それから道の駅等で買い求めてくれた人にそのカードを配布する。あるいはエコバックを抽選で当てるというようなことで、また旬のときに買い求めて戻ってきてくださいというような取り組みもしてございます。

一つ、私ども5000年前の入江高砂貝塚から出土しましたホタテ貝を、実はずっと何かに生かせないかということで、前浜の主力の産業でございますので、それをホットサンドのクッカーで、鋳物で最初はつくったのですけれども、現在、電気で、開発して協議会で３台持ってございます。それを今、道の駅のあぷたのほうで、ホタテ貝になんとか付加価値をつけたいということで、来週ですか再来週ですか、試食会をして、商品化できればということで、私どものほうでも食のカードを合わせて提供して、地元の食材に大きな付加価値をつけるというような活動もしてございますので、そういう意味では、ジオパークも各農業、それから

産業課とも連携しながら新しい形で、ジオパーク自体でもブランドの認証というのは、阿蘇にしてもブランド認証というのはやってございますけれども、いろいろな形で考えていく必要があるというふうに思ってございます。

○議長（佐々木良一君）　２番、越前谷議員。

○２番（越前谷邦夫君）　いずれにせよ、どう洞爺湖町の特産品を、商品価値を高めるかというところにもう少し情熱を持って対応していただければなと思っております。

最後に、10分よりありませんので。例えば子育て支援対策で、非常に担当課あたりも努力をしております。自分はそう思っている。やはり子育て支援というのは、特に、安心・安全にこの町で生活できるような、そういう地域社会の創造というのは大事なことであります。テレビを見ていると日常茶飯事のように、我が子を、２歳、３歳の子どもを火傷させてこうだとか、殴って云々とか、何とかかんとかというのが非常に新聞沙汰、テレビ報道されておりますけれども、そうやったことのない洞爺湖町にしていかなければならないと思っております。

そこで、一つ、今の事業のあり方で、子ども食堂というのがあります。この間、１年経ったわけでありますけれども、この子ども食堂をつくった意義というものは、次長からほうから後で答弁いただければありがたいのですが、やはりそういう子ども食堂が１年経って、イベントをやるということが、いろいろな啓蒙活動でも教宣活動でもわかっているわけですから、行政側も議員の方々もぜひ足を運んでいただける、そして盛り上げてやろうではないか、子ども食堂ですよ、貧困も含めての食堂です。そういったところにもっと行政マンも議会も情熱を持って応援する、そういう姿勢が今求められていることではないでしょうか。どうでしょう。私はそう思うのです。その町でやっている事業、それをどう行政も議会側も住民側もサポートしていくかという、その辺が今少し欠落している部分があるのではないかという気がするのですけれども、総務部次長、どんなものでしょう。

○議長（佐々木良一君）　総務部次長。

○総務部次長（皆見　亨君）　私どもが今実施してございます食堂は、子ども食堂だけに限らず、地域食堂ということで実施をしているところでございます。議員もご承知のとおり、子供でも高齢者の方でも障がいのある方でも、全ての方がここに集まり、集える。そしてさまざまな交流を深めていただくということで、昨年の３月から実施しているわけでございます。これまで毎週土曜日開催しているわけでございますけれども、およそ20名前後の方が毎回ご参加をいただいているところでございます。

先立っても１周年を記念いたしまして、感謝祭というものを催させていただきました。ボランティアの方、それから利用者の方等々含めまして、およそ100名の方が出席をしていただいたところでございます。もちろん越前谷議員もお越しいただいて、最初から最後までごらんいただきながら、子どもたちと一緒にカルタをとったり食事をしたりということで、楽しいひとときを過ごしていただけたのではないかというふうに思っているわけでございます。

私どもも、やはりこの地域食堂は、これからますます共生の根源となるものというふうに

思っております。まずはしっかりと継続した事業をしていかなければならないと。そのためには、皆様に、地域の人たちに知っていただく、この努力もしていかなければならないというふうに思っております。そういった意味では、昨年の秋に実施いたしました秋祭り、さらには、昨日と言いますか、近々で実施いたしました感謝祭、こういった諸行事等をこれからも継続をして、１人でも多くの方に知っていただいて、ここを利用していただくというようなことの努力をしていきたいというふうに思っているところでございます。

○議長（佐々木良一君）　それでは、これで２番、越前谷議員の質問を終わります。

一般質問は、これで終了いたします。

14時５分まで休憩といたします。

（午後　１時５１分）

○議長（佐々木良一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午後　２時０５分）

◎同意第８号から同意第21号の一括上程、説明、質疑、採決

○議長（佐々木良一君）　日程第３、同意第８号農業委員会委員の任命についてから同意第21号農業委員会委員の任命についてまでを一括して議題といたします。

一括して提案理由の説明を求めます。

森副町長。

○副町長（森　寿浩君）　それでは、議案書の１ページからでございます。

同意第８号から同意第21号まで、14件について一括して提案をさせていただきます。

いずれも農業委員会委員の任命に関する同意でございます。14名いらっしゃいまして、規則で、14名のうち認定農業者を過半数含むというような前提条件がございますけれども、今回の場合は14名のうち12名が認定農業者ということでございます。認定農業者というのは、農業改善計画をつくって、認定された農業者ということになります。それから、14名のうち１名は公募による委員ということでございます。

それでは、１ページからご提案いたしますが、それぞれのご経歴については後ほどまとめて説明をさせていただきます。

まず、１ページ。同意第８号でございます。

農業委員会委員の任命について。

下記の者を農業委員会の委員に任命したいから、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

記として、住所、虻田郡洞爺湖町入江145番地１、氏名が澤田英雄氏でございます。

続いて、２ページでございます。

同意第９号農業委員会委員の任命について。

下記の者を農業委員会の委員に任命したいから、農業委員会等に関する法律第８条第１項

の規定により、議会の同意を求めるものでございます。
記として、住所、虻田郡洞爺湖町清水168番地、氏名、小林忍氏でございます。
続いて、３ページ。
同意第10号農業委員会委員の任命についてでございます。
下記の者を農業委員会の委員に任命したいから、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。
記として、住所、虻田郡洞爺湖町月浦92番地、氏名、青山晴重氏でございます。
続いて、４ページ。
同意第11号農業委員会委員の任命についてでございます。
下記の者を農業委員会の委員に任命したいから、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。
記として、住所、虻田郡洞爺湖町花和130番地、氏名、塩野谷幸一氏でございます。
続いて、５ページでございます。
同意第12号農業委員会委員の任命について。
下記の者を農業委員会の委員に任命したいから、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。
記として、住所、虻田郡洞爺湖町川東６番地５、氏名、大西俊則氏でございます。
それから、６ページ。
同意第13号農業委員会委員の任命について。
下記の者を農業委員会の委員に任命したいから、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。
記として、住所、虻田郡洞爺湖町洞爺町54番地、氏名、京谷常美氏でございます。
続いて、７ページ。
同意第14号農業委員会委員の任命について。
下記の者を農業委員会の委員に任命したいから、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。
記として、住所、虻田郡洞爺湖町洞爺町151番地、氏名、塩田満氏でございます。
続いて、８ページ。
同意第15号農業委員会委員の任命について。
下記の者を農業委員会の委員に任命したいから、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。
記として、住所、虻田郡洞爺湖町成香399番地、氏名、原田尚一氏でございます。
続いて、９ページでございます。
同意第16号農業委員会委員の任命について。
下記の者を農業委員会の委員に任命したいから、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

記として、住所、虻田郡洞爺湖町成香64番地、氏名、星博明氏でございます。

続いて、10ページ。

同意第17号農業委員会委員の任命について。

下記の者を農業委員会の委員に任命したいから、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

記として、住所、虻田郡洞爺湖町香川108番地、氏名、田中利一氏でございます。

続いて、11ページ。

同意第18号農業委員会委員の任命について。

下記の者を農業委員会の委員に任命したいから、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

記として、住所、虻田郡洞爺湖町香川５番地、氏名、西岡正雄氏でございます。

続いて、12ページ。

同意第19号農業委員会委員の任命について。

下記の者を農業委員会の委員に任命したいから、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

記として、住所、虻田郡洞爺湖町成香365番地６、氏名、小山隆顕氏でございます。

続いて、13ページ。

同意第20号農業委員会委員の任命について。

下記の者を農業委員会の委員に任命したいから、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

記として、住所、虻田郡洞爺湖町花和290番地38、氏名、佐藤正明氏でございます。

続いて、14ページ。

同意第21号農業委員会委員の任命について。

下記の者を農業委員会の委員に任命したいから、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

記として、住所、虻田郡洞爺湖町洞爺町57番地２、氏名、村上正弘氏でございます。

それでは、議案説明資料をごらんいただきたいと思います。

議案説明資料の１ページからでございます。各氏のご経歴でございます。

初めに、澤田英雄氏でございます。

学歴につきましては、昭和56年３月、北海道立伊達高等学校を卒業されております。職歴については、昭和56年４月、農業をなされ、現在に至っております。公職歴、平成28年４月から洞爺湖町農業委員会委員として現在に至っております。団体歴等につきましては、昭和62年４月、虻田町４Ｈクラブ部長、平成７年４月、とうや湖農業協同組合青年部長、平成26年４月、入江地区農事組合組合長として現在に至っておます。

続いて、２ページ。

小林忍氏でございます。

学歴につきましては、昭和46年３月、北海道立伊達高等学校を卒業されております。職歴、昭和46年４月から農業をなされ、現在に至っております。公職歴、平成２年７月から平成17年７月まで、虻田町農業委員会委員、平成28年４月から洞爺湖町農業委員会委員として現在に至っております。団体歴等につきましては、平成２年５月、西胆振農業共済組合理事、平成11年２月、いぶり農業共済組合理事をなされております。

続いて、３ページでございます。

青山晴重氏のご経歴でございます。

学歴につきましては、昭和44年３月、北海道立伊達高等学校を卒業されております。職歴につきましては、昭和44年４月から農業をなされ、現在に至っております。公職歴、平成14年７月から平成17年７月、虻田町農業委員会委員、平成19年３月から洞爺湖町農業委員会委員として現在に至っております。平成４年４月から平成18年３月まで、虻田町体育指導員、平成18年６月から平成22年３月、洞爺湖町体育指導員、平成24年８月から、洞爺湖町公害対策審議会委員として現在に至っております。平成28年11月から洞爺湖町民生委員児童委員として現在に至っております。団体歴等については、昭和50年４月、月浦自治会役員として現在に至っております。

続いて、４ページでございます。

塩野谷幸一氏のご経歴でございます。

学歴につきましては、昭和44年３月、酪農学園大学酪農学科を卒業されております。職歴につきましては、昭和44年４月から農業、昭和52年２月から有限会社レークヒル牧場代表取締役として現在に至っております。公職歴につきましては、平成19年３月から洞爺湖町農業委員会委員として現在に至っております。団体歴等については、平成21年３月、サツラク農業協同組合理事、平成22年２月、ラクレン農業協同組合連合会代表監事、平成29年９月、ラクレン農業協同組合連合会会長として現在に至っております。平成22年２月、洞爺清住酪農組合組合長として現在に至っております。

続いて、５ページでございます。

大西俊則氏の経歴でございます。

学歴につきましては、昭和57年３月、札幌商科大学を卒業されております。職歴につきましては、昭和59年４月、農業をなされ、現在に至っております。公職歴、昭和60年４月から西胆振行政事務組合洞爺湖消防団員として現在に至っております。団体歴等につきましては、平成10年４月、とうや湖農協水稲生産部会長、平成26年４月、ＪＡとうや湖水稲生産部会長、平成10年４月、とうや湖農協トマト・メロン部会長、平成30年４月、川東自治会役員として現在に至っております。

続いて、６ページでございます。

京谷常美氏のご経歴でございます。

学歴につきましては、昭和42年３月、北海道立室蘭工業高等学校電気科を卒業されております。職歴、昭和43年４月から農業をなされ、現在に至っております。公職歴につきまして

は、昭和62年７月から平成14年７月、洞爺村農業委員会委員、平成14年７月から平成18年３月、洞爺村農業委員会会長職務代理、平成18年３月から平成22年３月、洞爺湖町農業委員会委員、平成22年３月から洞爺湖町農業委員会会長として現在に至っております。平成元年４月から西胆振行政事務組合洞爺湖消防団員として現在に至っております。平成18年８月から平成20年７月、洞爺湖町公害対策審議会委員、平成21年10月から洞爺湖町国民健康保険運営協議会委員として現在に至っております。

続いて、７ページ。

塩田満氏のご経歴でございます。

学歴、昭和52年３月、壮瞥町立壮瞥高等学校を卒業されております。職歴、昭和52年４月から農業をなされ、現在に至っております。公職歴については、昭和60年４月から平成18年３月まで洞爺村体育指導委員、平成18年６月から平成24年３月まで洞爺湖町体育指導委員、平成19年３月から平成25年３月まで洞爺湖町農業委員会委員をなされております。

続いて、８ページでございます。

原田尚一氏のご経歴でございます。

学歴につきましては、昭和55年３月、北海道立豊浦高等学校を卒業、昭和57年３月、北海道胆振支庁農業学園を卒業されております。職歴については、昭和55年４月から農業をなされ、現在に至っております。公職歴については、平成17年７月から平成18年３月、洞爺村農業委員会委員、平成18年３月から洞爺湖町農業委員会委員として現在に至っております。団体歴等でございます。平成25年１月からとうや湖クリーン農業振興協議会青果部会会長、平成25年１月、とうや湖農協長芋振興協議会会長、平成27年４月、とうや湖農協そ菜連絡振興協議会会長として現在に至っております。

続いて、９ページでございます。

星博明氏のご経歴でございます。

学歴については、昭和52年３月、北海道立倶知安農業高等学校を卒業されております。職歴については、昭和52年４月から農業をなされ、現在に至っております。公職歴、平成26年２月から平成28年２月まで、洞爺湖町まちづくり審議会委員、平成28年４月から洞爺湖町農業委員会委員として現在に至っております。団体歴等については、平成９年４月、洞爺村立成香小学校ＰＴＡ会長、平成25年４月、成香自治会役員をなされております。

続いて、10ページでございます。

田中利一氏のご経歴でございます。

学歴については、昭和44年３月、洞爺村立洞爺中学校を卒業されております。職歴については、昭和44年４月から農業をなされ、現在に至っております。公職歴については、平成28年４月から洞爺湖町農業委員会委員として現在に至っております。団体歴等でございます。平成８年４月から洞爺村立香川小学校ＰＴＡ会長、平成20年４月、香川自治会役員、平成26年４月、香川獅子舞保存会副会長として現在に至っております。

続いて、11ページでございます。

西岡正雄氏のご経歴でございます。

学歴については、昭和57年３月、北海道立倶知安農業高等学校を卒業されております。職歴については、昭和57年４月から農業をなされ、現在に至っております。公職歴については、平成20年４月から平成22年３月、洞爺湖町社会教育委員、平成26年８月から洞爺湖町公害対策審議会委員として現在に至っております。平成23年12月から平成25年３月、洞爺湖町地域福祉計画策定委員会委員、平成28年４月から洞爺湖町農業委員会委員として現在に至っております。団体歴等については、平成11年４月、とうや湖農業協同組合青年部長、平成25年４月、大原自治会役員として現在に至っております。

続いて、12ページでございます。

小山隆顕氏のご経歴でございます。

学歴については、昭和51年３月、北海道拓殖短期大学を卒業されております。職歴については、昭和48年３月から農業をなされ、現在に至っております。公職歴、平成24年４月から洞爺湖町農業委員会委員として現在に至っております。団体歴等でございます。平成21年４月、とうや湖農業協同組合理事、平成24年４月、とうや湖農業協同組合地区担当理事、平成30年４月、とうや湖農業協同組合副組合長として現在に至っております。

続いて、13ページ。

佐藤正明氏のご経歴でございます。

学歴については、昭和47年３月、虻田町立花和中学校を卒業されております。職歴、昭和47年４月から農業をなされ、現在に至っております。公職歴、平成６年４月から平成17年３月、虻田町交通安全指導員、平成15年２月から平成18年１月、虻田町農業委員会委員をなされております。団体歴等でございます。昭和49年９月、花和自衛消防隊員として現在に至っております。平成22年４月、虻田町立花和中学校ＰＴＡ会長、平成15年２月、いぶり農業共済組合理事、平成27年３月、いぶり農業共済組合総代、平成29年３月、みなみ北海道農業共済組合総代として現在に至っております。平成29年３月、みなみ北海道農業共済組合地区代表評価委員として現在に至っております。

続いて、最後になります。14ページでございます。

村上正弘氏のご経歴でございます。

学歴については、昭和45年３月、北海道立虻田商業高等学校を卒業されております。昭和51年４月から洞爺村役場に奉職され、平成18年３月、合併によりまして、洞爺湖町役場、奉職、平成24年３月、同役場退職ということでございます。公職歴につきましては、平成24年７月から洞爺湖町廃棄物減量等推進審議会委員として現在に至っております。平成24年10月から平成26年10月、洞爺湖町洞爺地区振興策検討委員会委員、平成26年４月、洞爺湖町人権擁護委員として現在に至っております。平成28年４月から洞爺湖町農業委員会委員として現在に至っております。団体歴等については、平成10年４月から洞爺第１自治会役員として現在に至っております。

以上、同意第８号から同意第21号まで一括してご提案を申し上げます。

○議長（佐々木良一君）　提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行いますが、確認程度の質疑といたします。質疑はありますか。

６番、立野議員。

○６番（立野広志君）　簡単なことをお聞きしたいと思うのですが、この農業委員というのは、平成28年４月１日に農業委員に関する法律が改正されて、それまでは公選制だったのですよね。それが今度は、議会の同意を得て、町長の任命制というふうになったわけです。その関係で、公選制の場合は、選挙が行われることもあったわけですけれども、今度は、任命制となると、定数に合わせた形でそれぞれ提案されるということになるのかなと思うのです。その辺の、一つは、調整というのはどんなふうに行われたものなのかということ。

それから、委員の１人には、さっき説明ありませんでしたけれども、利害関係のない者を１名以上入れるということになっているのです。名簿から見ると一番最後の方が、利害関係がないという方になるのかどうか、この１名だけなのかどうか、この点についても確認させていただきたいと思います。

○議長（佐々木良一君）　片岸農業振興課長。

○農業振興課長（片岸昭弘君）　議員のおっしゃるとおり、農業委員会法が平成28年４月１日から改正されまして、公職選挙法から市町村長が議会の同意を得て任命すると。任命に当たりましては、副町長がご説明したとおりでございまして、農業委員会の事務に関して利害関係のない者を１名以上入れるということ。それから、認定農業者が過半数であること。それから、年齢、性別等に著しく隔たりが生じないよう配慮するということになってございます。地域の農業者や地域農業団体に候補者の推薦を求めるとともに、農業委員になろうとする者の募集を行うということで改正されたものでございます。

洞爺湖町農業委員の候補者の募集につきましては、平成30年12月17日から平成31年１月18日までの１カ月間、町内回覧板等で、条例に基づきまして14名の募集を実施しております。このたび地域の農業者からの推薦者11名、農業団体からの推薦者２名、応募による方１名の14名の応募があったことから、提案をさせていただいたところでございます。ですので、募集して14名、地域の中で３名以上の推薦者から推薦された方が11名いらっしゃったということで、地域の中で調整されたということでございます。

それから、議員のおっしゃる、最後の利害関係のない方につきましては、最後の村上さんがその該当者ということになるかと思います。

○６番（立野広志君）　そのほか、質疑はございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　これで質疑を終わります。

ここで、お諮りします。

本件は、人事案件でありますので、討論を省略したいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　異議なしと認めます。

したがって、討論を省略することに決定いたしました。

これから、同意第８号から同意第21号までをそれぞれ採決します。

この採決は、全て起立によって行います。

初めに、同意第８号農業委員会委員の任命についてを採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（佐々木良一君）　起立全員です。

したがって、同意第８号農業委員会委員の任命については、同意することに決定いたしました。

続いて、同意第９号農業委員会委員の任命についてを採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（佐々木良一君）　起立全員です。

したがって、同意第９号農業委員会委員の任命については、同意することに決定いたしました。

続いて、同意第10号農業委員会委員の任命についてを採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（佐々木良一君）　起立全員です。

したがって、同意第10号農業委員会委員の任命については、同意することに決定いたしました。

続いて、同意第11号農業委員会委員の任命についてを採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（佐々木良一君）　起立全員です。

したがって、同意第11号農業委員会委員の任命については、同意することに決定いたしました。

続いて、同意第12号農業委員会委員の任命についてを採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（佐々木良一君）　起立全員です。

したがって、同意第12号農業委員会委員の任命については、同意することに決定いたしました。

続いて、同意第13号農業委員会委員の任命についてを採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（佐々木良一君）　起立全員です。

したがって、同意第13号農業委員会委員の任命については、同意することに決定いたしました。

続いて、同意第14号農業委員会委員の任命についてを採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（佐々木良一君）　起立全員です。

したがって、同意第14号農業委員会委員の任命については、同意することに決定いたしました。

続いて、同意第15号農業委員会委員の任命についてを採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（佐々木良一君）　起立全員です。

したがって、同意第15号農業委員会委員の任命については、同意することに決定いたしました。

続いて、同意第16号農業委員会委員の任命についてを採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（佐々木良一君）　起立全員です。

したがって、同意第16号農業委員会委員の任命については、同意することに決定いたしました。

続いて、同意第17号農業委員会委員の任命についてを採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（佐々木良一君）　起立全員です。

したがって、同意第17号農業委員会委員の任命については、同意することに決定いたしました。

続いて、同意第18号農業委員会委員の任命についてを採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（佐々木良一君）　起立全員です。

したがって、同意第18号農業委員会委員の任命については、同意することに決定いたしました。

続いて、同意第19号農業委員会委員の任命についてを採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（佐々木良一君）　起立全員です。

したがって、同意第19号農業委員会委員の任命については、同意することに決定いたしました。

続いて、同意第20号農業委員会委員の任命についてを採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（佐々木良一君）　起立全員です。

したがって、同意第20号農業委員会委員の任命については、同意することに決定いたしました。

最後に、同意第21号農業委員会委員の任命についてを採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（佐々木良一君）　起立全員です。

したがって、同意第21号農業委員会委員の任命については、同意することに決定いたしました。

◎議案第38号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木良一君）　日程第４、議案第38号洞爺湖町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改定についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

森副町長。

○副町長（森　寿浩君）　それでは、議案書の15ページでございます。

議案第38号洞爺湖町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正についてでございます。

洞爺湖町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例を次のように定めるものでございます。

今回の条例改正の趣旨でございますが、働き方改革を推進する民間労働法制の改正と同様に、国家公務員については、超過勤務命令の上限が人事院規則により定められることから、これに準拠し、改正を行うものでございます。

それでは、議案説明資料をお開き願いたいと思いますが、議案説明資料15ページでございます。

新旧対照表でございまして、第８条の正規の勤務時間以外の時間における勤務でございます。

第２項として、正規の勤務時間以外の勤務に関し、必要な事項について、規則への委任の規定を加えるものでございます。

この規則でございますけれども、人事院規則の改正に準拠しまして、町の施行規則を改正することとなりますが、概ね概要については、超過勤務命令の上限を規定するというような内容になります。原則として月45時間、年間で360時間、それから、他律的業務の比重が高い部署については、月100時間、年720時間等の規定を定めるものでございます。

他律的業務というのは、人事院からの例示では、議会対応ですとか、あるいは法令改正、国省庁との折衝、要望活動、国際的な事業の開催、補助事業で特殊なもの、あるいは大規模でない災害対応というような例示でございます。

では、議案に戻っていただきまして、附則でございます。議案の15ページです。

この条例は、平成31年４月１日から施行するものでございます。

以上、ご提案を申し上げます。

○議長（佐々木良一君）　提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　質疑なしと認めます。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

まず、本件に反対者の発言を許します。

６番、立野議員。

○６番（立野広志君）　ただいま議題となりました議案第38号洞爺湖町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正について、反対の立場で討論いたします。

この条例案は、いわゆる働き方改革一括法の成立に伴う条例改正です。内容としても、超過勤務命令を行うことができる上限などを当該条例の規則で定めることができるように、洞爺湖町職員の勤務時間、休暇等に関する条例において、規則への委任規定を設けるものとなっています。

昨年６月29日の参議院本会議が成立したこの働き方改革一括法は、立法事実が破綻しています。労働時間のデータのねつ造、データの隠ぺいが発覚し、法案から裁量労働制を削除せざるを得ないという異例の事態となりました。２割にも上るデータを削除した後も、残りのデータに次々と誤りと記載ミスが見つかっただけでなく、削除後のデータに重大な乖離が生じていたことが判明しました。

プロフェッショナル制度と言われる残業代ゼロ制度は、裁量労働制以上に長時間労働と過労死を激増させる温床になる仕組み、残業時間の上限規則も過労死ラインの残業まで容認する、看過できない内容です。とりわけ、データねつ造では、重要な調査データの２割以上が削減され、法律の信憑性、信頼性が失われたものでありました。

関係者からは、このような法案が成立すれば、長時間労働への歯止めが一層効かなくなる。過労死認定にもマイナスの影響を与えることは必至であるという指摘も多数でありました。到底改革の名に値しないこの法律の具体化には賛成できないことを申し上げて、反対討論といたします。

○議長（佐々木良一君）　次に、賛成者の発言を許します。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　それでは、討論を終わります。

これから、議案第38号洞爺湖町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正についてを採決します。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（佐々木良一君）　起立多数です。

したがって、議案第38号洞爺湖町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正については、原案のとおり決定されました。

◎議案第39号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木良一君）　日程第５、議案第39号洞爺湖町重度心身障害者及びひとり親家庭等医療費の助成に関する条例及び洞爺湖町乳幼児等医療費助成に関する条例の一部改正についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

森副町長。

○副町長（森　寿浩君）　それでは、議案書の16ページでございます。

議案第39号洞爺湖町重度心身障害者及びひとり親家庭等医療費の助成に関する条例及び洞爺湖町乳幼児等医療費助成に関する条例の一部改正についてでございます。

洞爺湖町重度心身障害者及びひとり親家庭等医療費の助成に関する条例及び洞爺湖町乳幼児等医療費助成に関する条例の一部を改正する条例を次のように定めるものでございます。

本改正につきましては、平成30年４月１日より、持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律が施行されたことに伴い、北海道医療給付事業の認定要件の明確化を図るための一部改正でございます。

改正内容については、議案説明資料でご説明をさせていただきます。

議案説明資料の16ページでございます。

16ページ、第１条の関係でございますが、洞爺湖町重度心身障害者及びひとり親家庭等医療費の助成に関する条例の関係でございます。

第３条で、助成の対象でございます。この条文に、国民健康保険及び後期高齢者医療保険制度における住所地特例認定要件に関する文言を加え、新たに除外対象要件となる第５号を追加するものでございます。

続いて、17ページの洞爺湖町乳幼児等医療費助成に関する条例第２条関係でございます。第３条の受給資格者でございます。こちらにつきましては、条文に、国民健康保険における住所地特例認定要件に関する文言を加え、新たに除外対象要件となる第３号を追加するもの

でございます。

内容的には、これまで国民健康保険の住所地特例対象者が75歳に到達した際には、後期高齢者医療広域連合、これは今、都道府県化されておりますが、広域連合間での住所地特例の適用は行われておりませんでしたが、法の一部改正によりまして、国保の住所地特例対象者が75歳到達及び障害認定により後期高齢者医療制度へ移行した場合にも住所地特例が継続されることとなり、医療保険の自己負担分に対する助成制度である重度心身障害者医療、それから、ひとり親家庭等医療、乳幼児等医療の各医療費助成制度の住所地特例の適用について条文の整理を行い、認定要件の明確化を図るものでございます。

議案書の17ページに戻っていただきまして、附則でございます。

施行期日で、この条例は、公布の日から施行し、平成30年４月１日から適用するものでございます。

経過措置といたしまして、改正後の洞爺湖町重度心身障害者及びひとり親家庭等医療費の助成に関する条例の規定は、平成30年４月１日以後の医療に係る医療費の助成について適用し、同日前の医療に係る医療費の助成については、なお従前の例によるとするものでございます。

以上、ご提案を申し上げます。

○議長（佐々木良一君）　提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。質疑はありませんか。

７番、小松議員。

○７番（小松　晃君）　附則の施行期日ですけれども、平成30年４月１日から適用するということは、１年間遡って適用されるという解釈で良いのでしょうか。

○議長（佐々木良一君）　山本住民課長。

○住民課長（山本　隆君）　すいません。そのとおりでございます。

○議長（佐々木良一君）　よろしいですか。そのほか、質疑はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　討論なしと認めます。

これから、議案第39号洞爺湖町重度心身障害者及びひとり親家庭等医療費の助成に関する条例及び洞爺湖町乳幼児等医療費助成に関する条例の一部改正についてを採決します。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　異議なしと認めます。

したがって、議案第39号洞爺湖町重度心身障害者及びひとり親家庭等医療費の助成に関す

る条例及び洞爺湖町乳幼児等医療費助成に関する条例の一部改正については、原案のとおり可決されました。

◎議案第40号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木良一君）　日程第６、案第40号洞爺湖町介護保険条例の一部改正についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

森副町長。

○副町長（森　寿浩君）　それでは、議案書の18ページでございます。

議案第40号洞爺湖町介護保険条例の一部改正についてでございます。

洞爺湖町介護保険条例の一部を改正する条例を次のように定めるものでございます。

条例改正の趣旨でございますが、介護保険法施行令等の一部を改正する政令の公布により、本条例で引用している条項が削られ、内容を定める条項が新設されたことによる改正でございます。

それでは、議案説明資料の18ページをごらんください。

議案説明資料18ページ、新旧対照表でございます。

第５条第１項第６号ア、保険料率についてであります。現行の令第38条第４項を令第22条の２第２項に改めるものでございます。

議案書に戻っていただきまして、18ページでございます。附則でございます。

この条例は、平成31年４月１日から施行するものでございます。

以上、ご提案を申し上げます。

○議長（佐々木良一君）　提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　質疑なしと認めます。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　討論なしと認めます。

これから、議案第40号洞爺湖町介護保険条例の一部改正についてを採決します。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　異議なしと認めます。

したがって、議案第40号洞爺湖町介護保険条例の一部改正については、原案のとおり可決されました。

◎議案第41号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木良一君）　日程第７、議案第41号洞爺湖町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営の基準に関する条例の一部改正についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

森副町長。

○副町長（森　寿浩君）　それでは、議案書の19ページでございます。

議案第41号洞爺湖町指定密着型サービスの事業の人員、設備及び運営の基準に科する条例の一部改正についてでございます。

洞爺湖町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営の基準に関する条例の一部を改正する条例を次のように定めるものでございます。

条例改正の趣旨でございますが、指定地域密着型サービスの各種基準については、介護保険法の規定により、厚生労働省令による基準をもとに町条例に定めております。当該省令の平成30年４月１日より改正されている部分のうち、経過措置として、町条例の改正を１年間猶予されていた部分について、このたび所要の改正を行うものでございます。

それでは、議案説明資料によりまして、改正条項の中身を説明させていただきます。

議案説明資料は19ページでございます。

初めに、目次でございますが、現行の第５節、指定療養通所介護の事業の基本方針並びに人員、設備及び運営に関する基準を第６節に移動して、第５節として、共生型地域密着型サービスに関する基準を新たに加えるものでございます。これにつきましては、障害のある方が65歳となり、介護保険の被保険者となった場合に、使い慣れた障害福祉サービス事業所を利用できなくなるケースがあることから、同一の事業所でのサービスを受けやすくするために、新たに共生型サービスを位置づけて、サービスの利用を継続的に可能とするための基準を変えるものでございます。

続いて、第２条、定義でございます。第２条中第６号を第７号として、第６号に共生型地域密着型サービスを加えるものでございます。

20ページに行きますが、第６条でございます。定期巡回随時対応型訪問介護従事者の員数でございます。第５項では、同一敷地内に各号に掲げるいずれかの施設等がある場合において、午後６時から午前８時までの間、当該施設等の職員をオペレーターとして充てることができる施設に、第12号として、介護医療院を加えるものでございます。

なお、介護医療院とは、日常的な医学管理や看取り・ターミナルなどの機能と、生活施設としての機能とを兼ね備えた新たな介護保険施設を言います。

次に、第３章中の２の中で、第５節を第６節として、第５節に共生型地域密着型サービスに関する基準として、次の２条を加えるものでございます。

第59条の20の２でございます。共生型地域密着型通所介護の基準でございまして、地域密着型通所介護に係る共生型地域密着サービスの事業を行う指定生活介護事業者、指定自律訓練事業者、指定児童発達支援事業者が、当該事業に関して満たすべき基準について、第１号

で、22ページにわたりますが、従業員の員数が当該指定生活介護事業所等が提供する指定生活介護などの利用者の数を、指定生活介護などの利用者及び共生型地域密着型通所介護の利用者の数の合計数であるとした場合における、当該指定生活介護事業所等として必要とされる数以上とする定めを規定するものでございます。

また、第２号では、共生型地域密着型通所介護の利用者に対して適切なサービスを提供するため、指定地域密着型通所介護事業所、その他の関係施設から必要な技術的支援を受けることの定めを規定するものでございます。

次に、第59条の20の３であります。22ページでございます。

準用でございます。運用に関する基準については、共生型地域密着型通所介護の事業について準用する定めを規定しております。

24ページになります。

第59条の25、利用定員でございますが、指定療養通所介護事業所の利用定員を９人以下から18人以下に改めるものでございます。

第61条、従業員の員数でありますが、同法第20条の４に規定する事業所の中に、介護医療院を加えるものでございます。

続いて、25ページでございますが、第65条、利用定員等であります。共用型指定認知症対応型通所介護の普及促進を図る観点から、ユニット型指定地域密着型介護老人福祉施設で運営する共用型指定認知症対応型通所介護の利用定員を、１日当たり３人以下から、当該ユニット型指定地域密着型介護老人福祉施設の入居者の数と、当該共用型指定認知症対応型通所介護の利用者の数の合計が１日当たり12人以下に改めるものでございます。

次に、利用定員等の第65条第２項から29ページの第113条第１項第７号の設備に関する基準までは、準用する条項の改正及び介護医療院が創設されたことなどによる規定の整理でございます。

次に、29ページの第117条でございます。指定認知症対応型共同生活介護の取扱方針であります。

第７項に指定認知症対応型共同生活介護事業者は、身体的拘束等のさらなる適正化を図るために講じなければならない措置について、第１号から第３号まで定めるものであります。

30ページをお開き願います。

第125条の協力医療機関等から31ページの第130条第９項、従業員の人数までは、準用する条項の改正及び相談支援員と介護支援専門員が支援に必要な情報の共有、さらには、介護医療院が創設されたことなどに伴う規定の整理でございます。

31ページですが、第138条、指定地域密着型特定施設入居者生活介護の取扱方針でございます。次のページにわたりますが、第138条中第６項を第７項とし、第６項に指定地域密着型特定施設入居者生活介護事業者は、身体的拘束等のさらなる適正化を図るために講じなければならない措置について、第１号から第３号まで改めるものでございます。

32ページでございます。第151条、従業員の員数から33ページの第153条、サービス提供困

難時の対応までは、準用する条項の改定及び追加、相談支援員と介護支援専門員との連携、さらには、介護医療院が創設されたことなどに伴う規定の整理でございます。

続いて、第157条、34ページにわたりますが、指定地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護の取扱方針でございます。第157条第６項を第７項とし、第６項に指定地域密着型介護老人福祉施設は、身体的拘束等のさらなる適正化を図るために講じなければならない措置について、第１号から第３号まで定めるものでございます。

第165条の２でございます。緊急時等の対応であります。万一の緊急時を想定して、指定地域密着型介護老人福祉施設に入所されている方が、生活介護の提供を行っているときに、入所者の病状の急変が生じた場合、その他必要な場合のため、あらかじめ医師との連携方法、その他の緊急時における対応方法を定めておかなければならない規定を定めるものでございます。

次に、第168条、運営規定であります。第168条中第７号を第８号として、第６号を第７号として、第６号に、緊急時等における対応方法を定めるものでございます。

35ページでございます。第182条、指定地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護の取扱方針であります。第182条中第８項を第９項とし、第８項にユニット型指定地域密着型介護老人福祉施設は、身体的拘束等のさらなる適正化を図るために講じなければならない措置について、第１号から第３号までを定めるものでございます。

次に、第186条、運営規定でございます。第186条中第８号を第９号とし、第７号を第号とし、第７号に、緊急時における対応方法を定めるものでございます。

36ページでございます。第189条の準用から39ページの第202条、準用までは、準用する条項の改定及び介護医療院が創設されたことなどに伴う規定の整理でございます。

議案書の24ページに戻っていただきます。附則でございます。

この条例は、平成31年４月１日から施行するものでございます。

以上、ご提案を申し上げます。

○議長（佐々木良一君）　提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。質疑はありませんか。

６番、立野議員。

○６番（立野広志君）　正直言って、なかなか説明がわかりにくいところが多いのですが、要は、標題というか名前を見ると、洞爺湖町指定地域密着型ですから、洞爺湖町が指定をする。そして、地域密着型というのは、今までは大体住民、町民が入る施設のことを言っていますよね。ですから、洞爺湖町民が入る施設におけるサービス事業の人数や、それから運営の基準を定めると、こういうことになるのかなと思うのですが、その中で、今説明いただきましたけれども、新しい言葉がいくつか出てきたのですが、もう少し補足で説明いただきたいのですけれども、まず、共生型というのは一体何なのかということです。共生型地域密着型。介護保険施設には、地域密着型ということで、ユニット式の介護施設がありますが、それに共生とつく名前は初めてですよね。ですから、現在の施設の中で、共生型というのはどうい

う施設のことを言うのか。あるいは、これは今の施設の中で申請をすれば、全て共生という扱いになるのか、その辺を一つ確認させていただきたいと思います。

それから、介護医療院というのは、これは新しく創設されるのですね。介護医療院というのは、医療院ですね、医療診療所でもなければ病院でもないと。医療院なのですね。これはどういう性格のものなのか、もうちょっと説明いただきたいと思います。

そして、一番私が聞きたいのは、障害を持った方が高齢となったときに、介護保険の適用を受けることになった場合、障害で施設に入所していたり、あるいはサービスを受けていた場合よりも介護保険が優先されてというようなことがあって、結局中身が、サービスの内容が変わるというような話も伺っていたのですが、これができた場合どうなるのか。現在、当町にも障害者施設あります。例えば入所している方々の高齢化に伴う、例えば施設の対応にもなるのかどうか、その辺も含めて、もう少し丁寧な説明をいただきたいと思います。

○議長（佐々木良一君）　皆見総務部次長。

○総務部次長（皆見　亨君）　まず、地域密着型サービス、この点からご説明申し上げたいと思います。

地域密着型サービスとは、介護保険におきまして、原則その市町村に住む人だけが利用できる地域特性に応じたサービスでございます。サービス事業者の指定に当たっては、市町村の条例で定められているものでございます。町内には、地域密着型の施設でございますけれども、認知症対応型の共同生活介護、いわゆるグループホーム、これが３カ所ございます。それから、地域密着型特別養護老人ホーム、これは１カ所。それから、地域密着型認知症対応型通所介護、いわゆる認知症の方が通えるデイサービスでございますが、これが１カ所。それから、地域密着型通所介護、これは普通のデイサービスでございますが、これが２カ所。それから、地域密着型介護老人福祉施設、これが１カ所ということで、計８カ所あるものでございます。

今回、この法改正によりまして、共生型のサービスというのが新設されたわけでございますが、先ほど副町長のほうもご説明いたしましたが、障害をお持ちの方が65歳になっても、使い慣れた事業所においてサービスを利用しやすくするというような観点から、福祉にかかわる人材に限りがある中で、地域の実情に合わせて人材をうまく活用しながら、適切にサービス提供を行うという観点から、今回、介護保険と障害福祉サービス、相互に該当するサービスについて、共生型サービスというものが創設されたわけでございます。

当町の場合にも障害者の施設として、あぶた福祉会という法人がございますけれども、この共生型サービスの創設の趣旨というものは、今説明したとおりなのですけれども、仮にあぶた福祉会が現在、生活介護の指定を受けて障害福祉サービスを実施しておりますけれども、共生型地域密着型通所介護、これにつきましては、障害福祉制度における生活介護、いわゆるあぶた福祉会が実施しております障害福祉制度、これの指定を受けた事業所であれば、共生型地域密着型通所介護の指定を受けられるということの基準を今回定めるものでございます。

なお、従業者の員数につきましては、この基準等で定めておりますけれども、他の運営基準、これにつきましては、地域密着型通所介護の基準、それを準用するというものでございます。

それから、介護医療院でございます。

介護医療院につきましては、先ほど議員もおっしゃいましたとおり、日常的な医学管理や看取り・ターミナルなどの機能と、生活施設としての機能とを兼ね備えた新たな介護保険施設ということでございます。当町には、もちろん介護医療院は現在ございませんけれども、近隣では、伊達市内の北湯沢地区に１カ所ございます。これは、今まで老人保健施設だった施設でございますけれども、ここが介護医療院の申請をして、老健と介護医療院とを兼ね備えた新しい施設ということで運営をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（佐々木良一君）　６番、立野議員。

○６番（立野広志君）　中身を聞くと、今までこういったサービスを受けていた方が、さらに高齢となっても引き続き通い慣れた施設でサービスを受け続けることができるためのものなのだというふうに伺えるのですけれども、例えば人数の関係、今出ていました。実際に、もともとの施設に入って通えるのかどうかというのは、そこの施設の受け入れられる定員の関係もあってどうなのかなという、よくわからない点なのです。

それと、料金はどうなるのかということも、もう一つお聞きしたいと思うのですが、聞けば、制度的には、そういった内容で配慮しているように見えるのですけれども、実際には、地域密着型としてある施設は８カ所あると。いろいろデイサービスも入れて８カ所あると。その中で、例えば今回のような共生型ということで、申請をすれば、そのほとんどが共生型地域密着型の介護施設というふうになるのか、それともならない要件もあるのか。例えばそういうところに通って人はどうなっていくのかと。その辺も、すみません、ちょっとわからない点が多いものですから、お聞きしたいと思います。

○議長（佐々木良一君）　皆見総務部次長。

○総務部次長（皆見　亨君）　介護保険または障害福祉のいずれかのサービス、これは、デイサービス、ホームヘルプサービス、ショートステイ、これの指定を受けている事業所が、もう一方の制度におけるサービスの指定を受けやすくするというような、今回の内容でございます。いわゆる指定の特例を規定するものということでございます。

先ほど地域密着型サービスのお話をさせていただきましたけれども、仮にあぶた福祉会が地域密着型の、いわゆる共生型地域密着型サービス、これを申請したということになると、この基準に基づいて審査をして、基準がクリアされているのであれば指定をしますというような内容になってきますので、定員の問題については、ここにも別にまた触れておりますけれども、その定員内であれば、利用する方については利用できるというようなことでございます。

逆に高齢者の方が障害をお持ちの場合、これは、やはり既存の今までの地域密着型のデイ

サービスなりヘルプサービスなり等をお受けすることができるので、なかなか老人の地域密着型の施設サービスを受けている方が、障害のほうまでの共生型のサービスを受けるかということになると、これはちょっとなかなか現実的に無理と言いますか、現実的なものではないのかなというふうに思います。

ですから、逆に障害をお持ちの方が65歳になったときに、今までどおりのサービス、これを受けられるのだという、利用者にとっては良い、今までのサービスの内容が継続できるということになりますので、そういった面のメリットというのはあるのかなというふうに思っているところでございます。

また、料金につきましては、これはそれぞれの事業所のほうで定めた料金でございますので、今と変わらないというふうに認識しているところでございます。

○議長（佐々木良一君）　６番、立野議員。

○６番（立野広志君）　要は、障害のある方を対象とした話なのですが。最後にお聞きします。障害のある方というのは、障害認定を受けて、障害者手帳を交付された方のことを言うのか、それとも高齢になって、さまざま障害の出てくる方がいますよね。そういう方々を含めて、障害のある方というふうに言っているのか、その辺の区分の仕方はどうなっていますか。

○議長（佐々木良一君）　皆見総務部次長。

○総務部次長（皆見　亨君）　私、先ほどの答弁の中で、あぶた福祉会は、生活介護の指定を受けているという話だと思うのですけれども、まず、障害福祉サービスの生活介護というのは、常に介護を必要とする障害をお持ちの方に対して、障害者支援施設において、主に昼間ですが、入浴とか排せつとか食事の介護等を行うとともに、創作的活動や生産活動の機会を提供する。これがいわゆる生活介護のサービスでございます。

今現在、そのサービスを使うためには、障害支援区分が１から６まであるのですけれども、３以上の方でなければ利用できないということになっておりますので、そういった基準は定めているところでございます。

○議長（佐々木良一君）　そのほかに質疑はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　これで、質疑を終わります。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　討論なしと認めます。

これから、議案第41号洞爺湖町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営の基準に関する条例の一部改正についてを採決します。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　異議なしと認めます。

したがって、議案第41号洞爺湖町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営の基準に関する条例の一部改正については、原案のとおり可決されました。

◎議案第42号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木良一君）　日程第８、議案第42号洞爺湖町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法の基準に関する条例の一部改正についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

森副町長。

○副町長（森　寿浩君）　それでは、議案書の25ページでございます。

議案第42号洞爺湖町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに地域指定密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法の基準に関する条例の一部改正ついてでございます。

洞爺湖町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法の基準に関する条例の一部を改正する条例を次のように定めるものでございます。

条例改正の趣旨でございますが、指定地域密着型介護予防サービスの各種基準については、洞爺湖町指定地域密着型サービスの各種基準同様、厚生労働省令による基準をもとに、町条例により定めておりますが、当該省令が改正することに伴い、このたび所要の改正を行うものでございます。

議案説明資料でご説明をさせていただきます。

41ページでございます。新旧対照表でございます。

まず、第５条、従業員の員数であります。特別養護老人ホーム等に日常的な医学管理や看取り・ターミナルなどの機能と生活施設としての機能とを兼ね備えた介護保険施設として、介護医療院が創設されたことから、これを加えるものでございます。

次に、第９条、42ページにわたりますが、利用定員等でございます。共用型指定介護予防認知症対応型通所介護の普及促進を図る観点から、ユニット型指定地域密着型介護老人福祉施設で運営する共用型指定介護予防認知症対応型通所介護の利用定員を１日当たり３人から、当該ユニット型指定地域密着型介護老人福祉施設の入居者の数と、当該共用型指定介護予防認知症対応型通所介護の利用者の数の合計が、１日当たり12人以下に改めるものでございます。

第44条でございますが、従業員の員数から45ページの第73条、認知症介護予防認知症対応型共同生活介護事業者の代表者までは、介護医療院が創設されたことに伴う条文の追加であります。

次に、第78条でございますが、45ページでございます。身体的拘束等の禁止についてであります。第３項に、指定介護予防認知症対応型共同生活介護事業者は、身体的拘束等のさら

なる適正化を図るために講じなければならない措置について、第１号から第３号まで定めるものでございます。

次、46ページでございますが、第83条、協力医療機関等についてでございます。第３項に、介護医療院が創設されたことに伴う条文の追加でございます。

議案書26ページに戻っていただきまして、附則でございます。

この条例は、平成31年４月１日から施行するものでございます。

以上、ご提案を申し上げます。

○議長（佐々木良一君）　提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　質疑なしと認めます。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　討論なしと認めます。

これから、議案第42洞爺湖町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法の基準に関する条例の一部改正についてを採決します。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　異議なしと認めます。

したがって、議案第42号洞爺湖町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法の基準に関する条例の一部改正については、原案のとおり可決されました。

◎議案第43号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木良一君）　日程第９、議案第43号洞爺湖町保育所条例の一部改正についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

森副町長。

○副町長（森　寿浩君）　それでは、議案書27ページでございます。

議案第43号洞爺湖町保育所条例の一部改正についてでございます。

洞爺湖町保育所条例の一部を改正する条例を次のように定めるものでございます。

改正理由でございますが、洞爺保育所建て替え事業により、同保育所の位置が変更となるため、所要の改正を行うものでございます。

議案説明資料の47ページをお開き願います。

新旧対照表でございます。

第２条、名称及び位置の表の中で、洞爺保育所の位置、416番地を59番地13に改めるものでございます。

議案書27ページに戻っていただきまして、附則でございます。

この条例は、平成31年４月１日から施行するものでございます。

以上、ご提案を申し上げます。

○議長（佐々木良一君）　提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　質疑なしと認めます。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　討論なしと認めます。

これから、議案第43洞爺湖町保育所条例の一部改正についてを採決します。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　異議なしと認めます。

したがって、議案第43号洞爺湖町保育所条例の一部改正については、原案のとおり可決されました。

◎議案第44号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木良一君）　日程第10、議案第44号洞爺湖町へき地保育所条例の廃止についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

森副町長。

○副町長（森　寿浩君）　それでは、議案書の28ページでございます。

議案第44号洞爺湖町へき地保育所条例の廃止についてでございます。

洞爺湖町へき地保育所条例を廃止する条例を次のように定めるものでございます。

洞爺湖町へき地保育所条例を廃止する条例。

洞爺湖町へき地保育所条例は、廃止する。

廃止の理由でございますが、洞爺保育所建て替え事業により、新築される保育所にへき地保育所を統合するため、洞爺湖町へき地保育所条例を廃止するものでございます。

附則でございます。この条例は、平成31年４月１日から施行するものでございます。

以上、ご提案を申し上げます。

○議長（佐々木良一君）　提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　質疑なしと認めます。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　討論なしと認めます。

これから、議案第44号洞爺湖町へき地保育所条例の廃止についてを採決します。

この採決は、起立によって行います。

本件については、議会の議決に付すべき重要な公の施設の利用または廃止に関する条例第２条の規定により、議長を含む出席議員の３分の２以上の同意を必要とする特別多数議決であります。ただいまの出席議員は13名であり、その３分の２は９名です。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（佐々木良一君）　起立全員です。

したがって、議案第44号洞爺湖町へき地保育所条例の廃止については、原案のとおり可決されました。

―――

◎議案第45号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木良一君）　日程第　11、第45号洞爺湖町公園条例の一部改正についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

森副町長。

○副町長（森　寿浩君）　それでは、議案書29ページでございます。

議案第45号洞爺湖町公園条例の一部改正ついてでございます。

洞爺湖町公園条例の一部改正についてでございます。

洞爺湖町公園条例の一部を改正する条例を次のように定めるものでございます。

今回の条例改正の趣旨でございますけれども、今年度、昨年の11月に整備が完了いたしました洞爺高校メモリアル公園を条例に加えるための一部改正でございます。

議案説明資料の48ページをお開き願います。

新旧対照表でございまして、別表第１のロ、その他の公園の一番下の欄に、洞爺高校メモリアル公園、そして住所、面積、それぞれ必要な事項を加えるものでございます。

議案書に戻っていただきまして、附則でございます。

この条例は、平成31年４月１日から施行するものでございます。

以上、ご提案を申し上げます。

○議長（佐々木良一君）　提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。質疑はありませんか。

６番、立野議員。

○６番（立野広志君）　今回は、公園条例の中にメモリアル公園として盛り込むということだ

けではあるのですが、条例ではなく、それに基づく運用基準なり規則というものが定められるようになるのかどうか。もしそれがあるのであれば、議会のほうにも開示していただきたいと思います。

○議長（佐々木良一君）　伊藤総合支所長。

○洞爺総合支所長（伊藤里志君）　一応これについては、公園条例の中での設置で、あとは、規則については、通常の公園の中と同じような形の中で取り進めたいというふうに考えております。

○議長（佐々木良一君）　６番、立野議員。

○６番（立野広志君）　ちょっと私、公園の規則を持ってきていなかったのですが、実は、同じように、その他の公園としてもう既に登録されている望洋台広場であったり、烏帽子岩公園というのがありますよね。実態としてはあまり整備されていない気がするのです。特に望洋台広場というのは、確かに草刈りとかはしているのでしょうけれども、何かもっと利用されるような、そういう活用の方法があったりしても良いのではないかと思うし、烏帽子岩公園についても、以前からいろいろ改善されてはきていますけれども、やっぱり公園として、本当に町民が憩える場として運用されるためには、それなりの必要な、行政側として整備する責任と言いますか、そういったものがきちんと明記されていかなくてはいけないのではないかというふうな気がするのですが、そういったことは決めていく考えはないのですか。

○議長（佐々木良一君）　伊藤総合支所長。

○洞爺総合支所長（伊藤里志君）　やはり町で整備した公園でございますので、その辺については、今後、地域の方々はもとより、やはり訪れてくれる観光客の方にもわかるような形ので、パンフレット等に記載するなど、そういう方法を考えていきたいなというふうに考えております。

○議長（佐々木良一君）　そのほかに質疑はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　質疑を終わります。

これから、討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　討論なしと認めます。

これから、議案第45号洞爺湖町公園条例の一部改正についてを採決します。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　異議なしと認めます。

したがって、議案第45号洞爺湖町公園条例の一部改正については、原案のとおり可決されました。

◎議案第46号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木良一君）　日程第12、議案第46号洞爺湖町農業研修センター条例の一部改正についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

森副町長。

○副町長（森　寿浩君）　それでは、議案書30ページでございます。

議案第46号洞爺湖町農業研修センター条例の一部改正についてでございます。

洞爺湖町農業研修センター条例の一部を改正する条例を次のように定めるものでございます。

今回の条例改正の趣旨でございますけれども、農業研修センターの農業体験施設でありますガラス温室とビニール温室について、平成14年度に農作物の栽培展示や収穫などを体験する施設して建設されておりますが、施設の老朽化が進む中、農業研修センター運営運営委員会の検討を見直し等を踏まえて、初期の目的が達成され、存続も困難と判断し、用途を廃止するための条例の一部改正を行うものでございます。

議案説明資料の一番最後のページでございますが、49ページをお開き願います。

新旧対照表でございます。第４条の施設及び用途でございます。第１項第４号の農業体験施設を削除し、第５号を第４号へ繰り上げるものでございます。また、第２項につきましては、第４号を削除し、同項第５号の文中、第４号を第３号へ変更し、同号を第４号へ繰り上げるものでございます。

議案に戻っていただきまして、附則でございます。

この条例は、平成31年４月１日から施行するものでございます。

以上、ご提案を申し上げます。

○議長（佐々木良一君）　提案理由の説明を終わります。

これから、質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　質疑なしと認めます。

これから、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　討論なしと認めます。

これから、議案第46号洞爺湖町農業研修センター条例の一部改正についてを採決します。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議」と言う人あり〕

○議長（佐々木良一君）　異議なしと認めます。

したがって、議案第46号洞爺湖町農業研修センター条例の一部改正については、原案のとおり可決されました。

◎散会の宣告

○議長（佐々木良一君）　以上で、本日の日程は、全て終了いたしました。

本日は、これをもって散会いたします。

ご苦労さまでした。

（午後　３時３７分）

会議の経過は以上のとおり相違ないことを証するためにここに署名する。

平成　　年　　月　　日

議　　長

署　名　議　員

署　名　議　員